

大韓民国母子保健プロジェクト 巡回指導調査団報告書

(1987.11.16～11.21)

昭和63年3月

国際協力事業団

医 協

88 - 01

大韓民国母子保健プロジェクト
巡回指導調査団報告書

(1987.11.16～11.21)

JICA LIBRARY



1041993151

昭和63年3月

国際協力事業団

国際協力事業団	
受入 月日 '88.4.06	110
	98
登録No. 17420	MCF

序 文

昭和59年8月1日に、5年間の協力期間をもって開始された本プロジェクトも、本年度をもって第4年次をむかえた。

昨年11月、本プロジェクトの進捗状況を把握し、適切な助言・指導を行うとともに、プロジェクト終了時までの活動計画を策定することを目的として、当事業団は飯塚理八、慶應義塾大学医学部教授を団長とする巡回指導調査団を派遣した。本書はその報告書である。

時あたかも、韓国は、民主化へ向けての大統領選挙を目前にし、88年9月にはソウル・オリンピック開催を控えており、経済発展へ向けての胎動、大きな歴史のうなりというものを体感した、というのがソウルの街を訪れた調査団員諸氏の一致した感想であった。24年前の東京オリンピック前夜の日本を彷彿したとの由である。

そのような中で、本報告書によれば、本プロジェクトは韓国全体の経済的技術的レベルアップと同様に、あるいは分野によってはそれを上回る勢いで、順調に進捗しており、まことによろこばしい限りである。

ここに、あらためて両国の関係者各位のご尽力に対し感謝申しあげる。

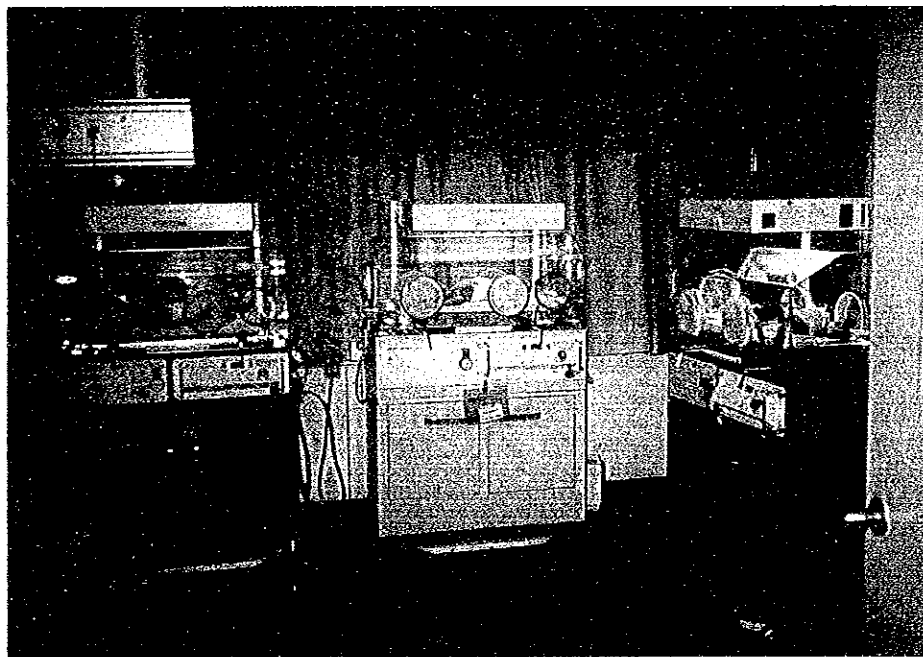
昭和63年3月

国際協力事業団 医療協力部長

小畑 美知夫



プロジェクトの拠点となっている順天郷大学
韓国母子保健センター



日本から供与されたNICU関連機器
インキュベーターやモニターも順調に稼働している



母子保健の向上を図るため全国の郡単位に92ヶ所
設立されている地域母子保健センター
通常は郡保健所と併設されている（写真は禮山郡
保健所と同母子保健センター＝右側）



1988年～1989年の協力計画に関する協議を終え
ミニッツに署名した韓国側と日本側調査団

目 次

1. 巡回指導調査団派遣概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査日程	3
1-4 主要面談者	5
2. 総括報告（産婦人科部門報告を含む）（飯塚）	6
3. プロジェクトの現状、問題点と対策、供与機材の利用状況	9
3-1 小児科部門（青木）	9
3-2 母子保健行政（石塚）	11
3-3 地域母子保健（小沢）	16
4. 昭和63年度及び昭和64年度の協力計画について	25
4-1 専門家派遣	25
4-2 研修員受入れ	25
4-3 機材供与	26
資 料	
1. ミニッツ	27
2. 禮山母子保健センターの概要	37
3. 事業報告書（1984. 8. 1～1987. 4. 30）	39
4. 各種臨時床統計	97
5. 母子保健啓蒙用パンフレット	151

1. 巡回指導調査団派遣概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

(経緯)

開発途上諸国の中で、順調な経済発展を遂げつつある新興工業諸国（Newly Industrialized Countries = NICS）中でも特に顕著な進展をみせている韓国は日本を除くアジア諸国の中では、初めてオリンピックを開催する程の国力を充実しつつあり、国土に見合った人口政策を実施に移すには、数的な人口抑制とともに、国の社会・経済発展をおし進めるにふさわしい質的な向上を図ることが期待され、母子保健の水準向上は大きな課題となっている。

かかる状況で、韓国政府は、1990年代後半の人口を4,800万人台におさめ、2025年には人口増加率を0%とし、1夫婦当りの出産数、現状2名を1名にすることから、この1名の子供を精神的、肉体的に健全な人的資源として成長させる必要から、母子保健水準の向上を図るため I B R D（International Bank for Reconstruction and Development 通称・世界銀行）からの借款を得て全国に92ヶ所の第一線母子保健センターを建設した。

第一線母子保健センターは、通常各郡保健所に併設されており、規模、機能はA級、B級の二種に区別されるが、B級の場合医師1名、助産婦2名、看護婦3名、保健補助員1名、その他1名で構成され通常分娩等には充分対応できるようになっている。

上記92ヶ所の母子保健センターは、13地域に分割された全国に散在するが、それぞれの地域の300床以上の大学病院または総合病院は、地域母子保健センター（第2次センター）として機能することになっており、現在すでに11ヶ所が指定されている。これら、第一次母子保健センター、第二次母子保健センターの上部構造として、母子保健に関する中央レファレルセンターの機能及び母子保健従事者の教育並びに母子保健思想の普及を任務として、順天郷大学韓国母子保健センターが位置付けられている。

韓国母子保健センターは、上述の如く私立大学の附属機関であるが、その任務としては、国家の母子保健の中核機関であることから、当センターに対する技術協力要請が韓国政府より日本政府に対してなされ、現在までの本技術協力の経緯は以下のとおりである。

- | | |
|----------|---|
| 昭和54年3月 | 韓国政府より順天郷大学に設立される韓国母子保健研究所及び母子保健総合病院設置計画に対する技術協力の要請 |
| 昭和54年12月 | 韓国政府より技術協力につき重ねて要請 |
| 昭和55年1月 | 外務省より保健医療協力事業予算上の制約のため当面の推進は困難な旨回答 |
| 昭和57年12月 | 韓国科学技術処（技協の窓口機関）本プロジェクトの重要性に鑑み日本側に再検討を要請、とりあえず、単発研修員枠で技術移転を図りたい旨表明。 |
| 昭和58年7月 | 韓国政府は、本プロジェクトはBHNに基づくものであり要請案件中プライオ |

	リティーが高いとして、改めて要請
昭和59年1月	日本側、森山豊総合母子保健センター所長を団長として調査団を派遣、技術協力の必要性、妥当性を確認
昭和59年4月	飯塚理八慶應義塾大学教授を団長として、実施協議調査団が派遣され、①NICU技術向上 ②周産期管理技術向上 ③生殖医学の臨床、基礎研究レベル向上 ④地方における母子保健管理の向上・確立を内容とした5年間(59.8.1～64.7.31)の技術協力に関するR/Dが署名された。
昭和59年度	専門家派遣3名、研修員受入3名 機材供与(82百万円)を実施
昭和60年度	専門家派遣3名、研修員受入3名 機材供与(77百万円)を実施
昭和61年6月	森山豊母子愛育会総合母子保健センター所長を団長として計画打合調査団を派遣
昭和61年度	専門家派遣6名、研修員受入3名 機材供与(79百万円)を実施

(目的)

昭和59年4月6日署名のRecord of Discussions(R/D)に基づき実施されている本技術協力プロジェクトに係る下記事項について調査、協議を行うとともに、先方カウンターパートに技術指導を実施し、帰国後関係者に報告する。

- (1) これまでのプロジェクト活動の進捗状況及び現状を把握し、その評価と諸問題について検討する。
- (2) 昭和62年下期からプロジェクト終了時(昭和64年7月31日)に亘る具体的活動計画とそれに対する日本側技術協力計画について協議し、ミニッツにとりまとめる。
- (3) プロジェクトの運営管理、技術的事項全般に関し、先方プロジェクト関係者及びカウンターパートに対する助言と指導を行う。

1-2 調査団の構成

大韓民国母子保健プロジェクト巡回指導調査団員名簿

森山	豊	総合母子保健センター所長
飯塚	理八	慶應義塾大学医学部 教授
青木	菊磨	総合母子保健センター愛育病院小児科部長
石塚	正敏	厚生省児童家庭局母子衛生課 課長補佐
佐藤	忠	JICA医療協力部医療協力課 課長代理

地域母子保健専門家

小沢百合子

山梨県白根町保健婦長

1-3 調査日程

日順	月 日	曜	調 査 行 程
1	11. 16	月	<p>10:28 東京発-(JL951)-12:45 ソウル着</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飯塚団長他調査団員3名及び小沢百合子地域母子保健専門家 ○ソウル金浦空港にて、俞順天郷大学・韓国母子保健センター所長の出迎え <p>15:00 在韓国日本大使館表敬</p> <ul style="list-style-type: none"> ○梁井大使に対し、調査団来訪の目的を述べ、プロジェクトの現況につき報告、梁井大使よりプロジェクトの順調な進捗に関し、飯塚団長はじめ日本側協力支援機関に謝意、小河内一等書記官同席 <p>16:30 調査日程等打合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調査団及び俞所長 <p>17:00 本プロジェクト日本側国内委員会森山委員長と合流</p> <p>18:00 日本大使館 浦部参事官主催夕食会</p>
2	11. 17	火	<p>9:30 順天郷大学訪問</p> <p>9:45 順天郷大学人口問題地域社会学研究所長 方淑教授と、小沢専門家の行程につき意見交換</p> <p>10:00 順天郷大学 徐理事長に表敬</p> <ul style="list-style-type: none"> ○徐理事長より森山国内委員長等に対し、来韓を歓迎する言葉があり、またプロジェクトの協力に対する謝意が述べられた。 <p>10:30 俞所長よりスライド等を用いてプロジェクトの現況について調査団に対して説明、質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ○韓国側より俞所長の他李尚柱小児科医長 趙泰鎬産婦人科医長 李鍾勲行政室長が出席 ○院内見学 <p>13:30 小沢専門家陰城方面母子保健センター調査のため出発</p> <p>14:00 1988年度及び1989年度プロジェクト活動計画について日韓協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年度毎の専門家派遣、研修員受入、機材供与について協議するとともに、最終年の1989年6月に、本プロジェクトの総括と

日順	月 日	曜	調 査 行 程
2	11. 17	火	<p>して、日韓母子保健ジョイント・コンフェレンス開催につき意見交換</p> <p>16:30 地域母子保健センター視察等18日以降の日程につき調整於、MCHセンター</p> <p>18:30 徐理事長主催夕食会</p>
3	11. 18	水	<p>10:00 順天郷大学MCHセンター</p> <p>10:30 石塚、佐藤団員天安地区調査に出発、飯塚団長、青木団員は各科打合</p> <p>11:30 石塚、佐藤団員順天郷大学附属天安病院着 金泳錫院長より同病院付設地域母子保健センターについて説明聴取。妻東漢産婦人科歯長同席</p> <p>12:00 飯塚団長、朴永夏乙支病院理事長と懇談、同病院付設大田MCHセンターについて意見交換</p> <p>13:45 順天郷大学（本校、医学部、理学部、商経学部）訪問、徐錫均学長に表敬、意見交換</p> <p>14:45 忠清南道禮山郡 禮山保健所及び同付設母子保健センター訪問、尹炳讚所長より禮山郡における保健所活動及び母子保健活動について聴取</p> <p>18:00 飯塚団長、ソウル国立大学産婦人科張潤錫主任教授及び教室員と懇談</p> <p>18:00 石塚、佐藤団員、順天郷大学徐学長主催の夕食会</p>
4	11. 19	木	<p>9:00 石塚、佐藤団員</p> <p>11:00 青木団員、ソウル大学医学部小児病院視察（順天郷大李東煥助教授同行）</p> <p>15:00 石塚、佐藤団員合流、順天郷大学母子保健センターにて、各科協議結果をもとに1988年度、89年度協力計画につき協議、ミニッツ案文作成</p> <p>16:30 母子保健センター内供与機材について点検</p> <p>18:30 調査団主催夕食会（於、百里香、大三ビル）</p>
5	11. 20	金	<p>10:00 順天郷大学母子保健センターにてミニッツ署名</p> <p>10:30 小沢専門家陰城より帰京、調査団に合流</p> <p>11:00 飯塚団長帰国のため出発</p> <p>16:30 森山委員長、青木、石塚、佐藤団員、小沢専門家、日本</p>

日順	月 日	曜	調 査 行 程
5	11. 20	金	大使館で梁井大使に調査結果を報告，小河内一等書記官同席
6	11. 21	土	9：00 石塚団員，小沢専門家母子保健センター訪問，方塚教授 他と地域母子保健に関し，意見交換 13：50 ソウル発-(JL952)-15：50東京着

1-4 主要面談者

順天郷大学 (SOON CHUN HYANG UNIVERSITY)

理 事 長	徐 錫 助
学 長	徐 錫 均
韓国母子保健センター所長	俞 勳
病 院 長	李 仁 洙
人口問題，地域社会医学研究所長	方 塚
小 児 科 科 長	李 尚 桂
産 婦 人 科 科 長	趙 泰 鎬
附属天安病院長	金 泳 錫
天安病院産婦人科長	裴 東 漢
韓国母子保健センター行政室長	李 鍾 勳
小 児 科 助 教 授	李 東 換
大田乙支病院	
理 事 長	朴 永 夏
禮山郡保健所	
所 長	尹 炳 讚
日 本 大 使 館	
特命全権大使	梁 井 新 一
参 事 官	浦 部 和 好
一 等 書 記 官	小 河 内 敏 朗
ソウル国立大学	
産婦人科主任教授	張 潤 錫
小児科主任教授	DR. MOO

2. 総括報告

(飯塚)

1984年4月6日署名のRecord of Discussionsに基づき開始されている本技術協力プロジェクトに関わる調査、協議のため本調査団は1987年11月16日(月)より11月21日(土)迄、ソウル市及びその近郊においてその業務が行なわれた。

おもえばR/Dにかゝわる、その事前調査、及びR/D時の両国との認識と未来像とは些かの危惧と不安も内蔵されていたと云ってよい。たゞ当時の韓国の乳児死亡率、周産期死亡率、妊産婦死亡率が日本の15~20年前のレベルであること、政府要人との会議にて韓国の母子保健向上への核として本プロジェクトが遂行されて行くことへの期待につながれたということである。1984年10月以来の飯塚らの専門家来韓にはじまり、1987年8月の飯塚、河上まで既に5次にわたり技術指導が行なわれてきている。また韓国側よりの研修員受入れは、俞勲所長の事前研修の予備的なものからはじまり、本格的な本プロジェクトについては1984年11月より金彰輝、李東華、李英周氏らの研修よりはじまり、現在('87.11月)まで第4次計画が遂行されつゝある。また供与機材も本プロジェクトの目的に沿うて導入され運営されている筈である。

順天郷大学韓国母子保健Center

当Centerは1983年11月着工、1985年7月12日開院式が行なわれた。本プロジェクトの核をなすもので、機材供与の中心をなすものである。(その構造と機能は資料参照)

本邦においても80数校を越える医科大学において、このような附置されているCenterを有する処は稀有であり、我が国からみても一つのモデルと云えよう。臨床面においては産婦人科、小児科が二大中心となっており、同一構内に総合病院が隣接して有機的なつながりをもっていることは極めて好都合である。産婦人科の臨床においても順調に推移し(事業報告書による)最近の分娩例も月毎150に達するという。また一方、本邦において研修された李認順医師らのMicro-surgeryグループは着実に準備を整え、'87年8月には飯塚、河上らと共にその手術効果をあげるに至っている。供与された機材については、極めて有効に使用されその実をあげている。

なおCenterの機構として地域母子保健事業部(方塚部長)と研究部(姜得龍部長)とがある。地域母子保健についてはR/D時に協議された要の一つでもある。

韓国母子保健事業と本プロジェクトのかゝわり

1960年代より韓国政府は人口政策を重点課題とし、家族計画事業を推進し、人口増加率の停止線を2023年において、一家庭2名の子供政策より一家庭1名への方向転換を行ない、量より質への時代に入っている。特に乳児死亡率の低減を図るため政府は92ヶ所の第一線母子保健Center

ter 建設計画を行なった。その基本は

① 母子保健法の再整備

1986年4月母子保健法改正—民間事業の本格的参画と活性化

② 母子保健登録管理事業強化—(母子保健手帖など)

③ 第一線母子保健Centerの運営と活性化

全国を13の地域事業圏に分割し、1986年5月に地域内第一線母子保健センターを指導援助するためその圏内の民間医療機関(私立大学病院5, 医療法人6)11ヶの病院を地域母子保健総合Centerに指定して官民協同の実をあげることになった。

R/Dにおける本プロジェクトの目的は、“順天郷大学韓国母子保健Centerを強化させることにより韓国母子保健事業発展に寄与する”にある。従って順天郷大学の有する、(韓国母子保健Center, 天安病院地域母子保健総合Center, 亀尾病院地域母子保健総合Center)の3施設が地域母子保健総合Centerとして指定され、また1986年8月に11ヶ所の地域母子保健総合Centerの責任者が集まり統一事業の遂行と教育啓蒙事業の推進のため、全国母子保健総合Center協議会を構成し、順天郷大学韓国母子保健Center長俞勲教授が会長に就任し、協議会顧問として幹国人口母子保健研究院金貞泰博士、順天郷大学方淑教授が就任されたという。

即ち、本プロジェクトは正に韓国母子保健事業強化推進の一翼を荷うことがクローズアップされたのである。

1986年6月、私共は直接、地方の第一線の母子保健Centerを訪門しその実態を見学、現地の担当者と面談する機会があった(調査団の報告参照)、また私は太田乙支病院地域母子保健総合Centerが建設中であることを観察し、本年は完成し、総合Centerは1987年3月1日事業を開始し、1987年度は管轄内第一線の母子保健Centerの要員教育(医師、助産婦、看護員)に重点をおいている。協議会はさらに啓蒙的印刷物の配布をも母子保健向上の事業の一環としてその第一冊を上梓している。(資料参照)

評価と展望

当初一大学の一部位に対する技術協力と援助がいくばくの貢献をなし、その治績を如何にあげられるかについては、数次の調査団の恒に検討し続けてきた処である。この度は、1986年6月以後の総括と将来計画への検討であるが、ソウルにおける本Centerは開院以来順調に進展し本地域における総合Centerとして十分な機能を発揮しており、供与された機材も応分なる働きを示しており、また何よりも日本において研修された方々がその職分において活躍されていることは、同慶の至りである。

さらに、本事業が韓国母子保健事業(官民共同事業)の総合組織作りに何らかの形で寄与できたということは、11月17日(火)の俞所長よりのBriefingのうちにも納得できたし、その後現地説明と視察とによって感得できたのである。この間における駐韓日本大使館の歴代大使、担当

官の本プロジェクトに対する関心と熱意とがこの様な順調な経過をたどりつゝある大きな要因であることは、韓国側関係機関と当事者諸公の理解と協力と相まって相互発展しつゝあることと共に論をまたない処である。

従って次年度以降、事業終局まで緊密なる協調のもとにその実をあげて行くことを、followすることは私共のつとめでもある。

3. プロジェクトの現状、問題点と対策、供与機材の利用状況

3-1. 小児科部門

(青木)

韓国母子保健センターは1985年7月に開院して以来およそ2年が経過したが、その間の稼働状況を1987年9月までの同センター小児科の臨床統計を中心にして報告する。

3-1-1 新生児室および新生児集中治療室(NICU)の運営状況

現在韓国ではNICUとしての諸設備を整えて運営されているのは、韓国母子保健センターとソウル大学小児病院の2箇所のみである。したがって韓国母子保健センターのNICUはこれからの韓国にとって非常に重要な存在であり、今後韓国の各地域に設置されていくであろうNICUのモデル的存在になるものと考えられる。その活動状況は年ごとに進展しつつあり、わが国からのインキュベーター、各種モニター類、レスピレーターなどの機器類は高率に活用されている。NICUに収容された新生児は、1986年は1年間で350例であったが、1987年は9月までにすでに432例に達している。昨年と比較して変化しつつあるのは、主としてソウル市内の病院、医院より搬送されてくる症例が増加したことである。このことは、前回の報告でも触れたが、ソウル市内の各医療機関に対する韓国母子保健センターの役割が徹底しつつあるものであり、漸くその効果が現れてきたと考えられる。搬送件数は1985年度は6か月で17件、1986年は1年間で86件、1987年は9月までに87件に達している。その内容は未熟児を筆頭にすべて病児であり、ソウル市内でのNICUとしての重要な役割を果たしているものと考えられる。新生児室全体として開院以来これまでに扱ってきた新生児は3,862例に達しており、これも毎年増加の傾向を示している。ここで扱った新生児の死亡率は平均1%前後であるが、未熟児のみをとりあげてみると10%前後となっている。その他の死亡した病児の内容は敗血症、特発性呼吸障害、ダウン症候群、先天性心疾患、多発奇形、など新生児特有の疾患である。死亡率としては多少高値であるが、今後のNICUでの経験の蓄積とともに、他院からの搬送される新生児については搬送の条件や時期など、NICUの存在に対する認識の程度、搬送の必要性の判断等の向上により、今後更に改善されていくものと期待される。

3-1-2 育児指導の状況

韓国母子保健センターで出生した児に対する育児指導の内容は一般的な育児指導の他に予防接種、栄養指導、先天性代謝異常症およびクレチン症のマスクリーニング、血液や尿の一般検査に及び、内容の充実した指導を行っている。しかし受診率についてはこれまでの平均は57.5%であり、必ずしも望ましい受診率ではない。ソウル市内の中流階級以上の家庭を対象としている韓国母子保健センターでもこの程度の受診率であり、地方を含めた韓国全体を考えると、恐らくもっと低い傾向にあるものと想像される。育児指導の必要性の啓蒙が、韓国母子保健センターを中心に韓国全体に浸透していくことが期待される。

3-1-3. 新生児マススクリーニングの現状

クレチン症に対するスクリーニングはこれまでに6,928名に達しており、2例が発見されて早期に治療が開始され、正常に発育している。先天性代謝異常症はフェニルケトン尿症、ホモシスチン尿症、ヒスチジン血症、メープルシロップ尿症の4疾患について実施されているが、これまでの総検査数は6,383であり、まだ1例も発見されていない。しかし韓国母子保健センター小児科李東煥副教授を中心にソウル市内の精薄児施設を部分的に調査した結果、これまでに8例のフェニルケトン尿症患者が発見されており、日本よりも恐らく発生頻度は多少高いものと想像される。これらのマススクリーニングは昨年専門家の派遣以来漸く軌道に乗るようになったものであり、現在の構想としては韓国母子保健センターを中心に全国92箇所におよぶ各母子保健センターから検体を集めて実施していくようである。しかし、スクリーニングで発見された症例の治療については、クレチン症は特に問題はないが、先天性代謝異常症の治療に必要な特殊ミルクは韓国では入手が不可能であり、今後検討されるべき課題と考えられる。

その他韓国母子保健センターが行っているスクリーニング的な事業の中には、韓国の小児と妊婦に対する風疹の抗体価の測定、B型肝炎に関する疫学的調査等あり、広範囲に調査が実施され、学会にも発表されている。

3-1-4. 母子保健活動の啓蒙および教育事業

韓国母子保健センターでは開院以来ソウル市内および周辺の開業医に対する母子保健の最近の動向等を主題にして毎月1回研修会を行っている。参加者は40名に及ぶこともあり、韓国母子保健センターの紹介も兼て、ここが開放的に広く利用されていくことが期待されている。その他母親教室、母子保健要因の研修なども引き続き実施されている。

3-1-5. 小児科一般診療の実績統計

開院以来の外来及び入院の患者数は引き続き増加の傾向にあり、診療部門の活躍が伺われる。韓国母子保健センターの小児科に来院する対象は、前述のごとく、主にソウル市内の中流以上の家庭であるが、疾患統計の内容を検討すると、結核が依然として多いことが注目される。しかしツベルクリン反応やBCGが積極的に実施されており、小児の栄養状態の改善とともに今後急速に減少していくものと思われる。しかしこのような傾向は地方の農漁村ではもっと著しいと想像される。小児の様々な慢性疾患も含めた広範囲の母子福祉対策の実施が望まれる。

3-1-6. 研修医師の帰国後の活動内容

前回報告した医師の各専門分野での活躍はめざましいものが感じられ、韓国母子保健センターの小児科としての診療内容の充実に貢献している。更にソウル周辺の医療レベルの向上にも役立っているものと想像される。昨年研修を終了した方復陽講師はアレルギー疾患、特に小児の気管支喘息の研修を行い、帰国後ソウル市内で小児アレルギー研究会を発足させている。小児のアレ

ルギー疾患対策は今後の韓国での重要な課題となるものと考えられ、活躍が期待されている。

3-1-7. 総 括

これまでに報告したように、韓国母子保健センターは発足以来めざましく内容が充実されており、韓国での母子保健の中心的な存在としての基礎作りにはほぼ成功したものと考えられる。特にわが国からの医療機材は申し分なく活用されており、日本での医師の研修も含めて、医療援助の役割は十分に果たされていると考えられる。しかし、韓国母子保健センターで対象としている母子はソウル市内の中流以上の家庭であり、その内容から韓国全体の母子保健レベルを推定することは誤りである。一方、昨年韓国の母子保健法が部分修正されて民間活力の導入が約束され、韓国母子保健センターを中心に韓国全土の82箇所の母子保健センターを結んだネットワークが完成した。更にそれを支持する各地域10箇所の地域母子保健総合センターの発足もほぼ完成しており、今後の各地域における母子保健活動が期待される。このような状況から、韓国全体としての各地域の母子保健向上のためにも、本プロジェクトに若干の軌道修正が望まれる。

3-2. 母子保健行政

◁韓国母子保健の現状と地域母子保健▷

(石塚)

3-2-1. 韓国の母子保健の水準

韓国における最近の母子保健の各種指標は以下のようにになっている。

- 乳児死亡率 31.8 (出生 1,000 対, 1986年)
- 妊産婦死亡率 3.3 (出生 10,000 対, 1986年)
- 出生率 19.4 (人口 1,000 対, 1986年)
- 分娩処置の実施者……医師 70.9%, 助産婦等保健従事者 6.3%, 家族 22.6%,
その他 0.2% (1985年)
- 施設内分娩率……全国 62.9%, 都市部 79.2%, 郡部 35.8% (1982年)
- 乳児の死亡原因……①先天異常 15.3%, ②肺炎 11.6%, ③新生児障害 7.5%
④胃腸炎 5.1%, ⑤不慮の事故 4.3%

我が国と比較して乳児死亡率で4半世紀遅れ、妊産婦死亡率では12年程度遅れてはいるが、近年順調な改善がみられている。これらの数値も都市部と郡部とでは相当の違いがあるといわれる。出生率も「一人っ子政策」が徹底され、更に低下が促進されると思われる。

一方、家族計画に関する実態は以下のとおりである。

- 家族計画実施率 71.4% (1986年)
- 避妊方法の内訳……卵管結紮 24.6%, 精管切断 10.3%, IUD 26.0%,
コンドーム 12.1%, 経口避妊薬 5.1%, 月経周期調節など 21.9%
(1986年)

3-2-2. 母子保健行政のシステム

韓国の母子保健に関する行政システムは図に示すとおりである。

一般母子保健事業や家族計画事業等は、中央レベルにおいて保健社会部 (Ministry of Health and Social Affairs) が全般的な責務を有しているが、地方機関である市郡保健所 (Health Center), 母子保健センター (Maternal and Child Health Center), 保健支所 (Health Sub-center) などは内務部 (Ministry of Home Affairs) の管轄であり、人事予算面において内務部及び道庁の統制を受けることになる。保健社会部は保健所をはじめ道庁・郡庁・面事務所 (面 Myon は日本の村に当たり、人口 1 万人程度) などの保健衛生に関する業務について技術上の監督権を有している。

保健所は市郡単位に現在 227 カ所設置されている。保健所長の多くは、医師や公衆衛生の技術者ではなく一般の事務官であるといわれている。1 保健所当たりの平均スタッフ数は 34.7 人で内訳は医師 1.5, 歯科医師 1.0, 看護職 13.8, 薬剤師・放射線技師等 3.2, 公衆衛生技術者 5.8, 事務職等 9.5 となっている。

保健支所はソウル等の大きな市になく、9 道に 1,321 カ所整備されている。一カ所当たりの平均スタッフ数は 4.1 人で内訳は医師 (公衆保健医) 0.8, 歯科医師 0.3, 看護職 2.3, 看護補助員 0.7 となっている。保健診療所 (Primary Health Care Post) は更に末端の機関であって、部落レベルに設置され、医師はいないが、法律上制限された範囲内の医療行為 (投薬が中心) を行っている。看護職 (保健婦) が 1 名常勤しているという。

3-2-3. 母子保健センター

1986年5月に大巾改正された母子保健法において、母子保健機構 (母子保健センター) の設置がうたわれ (第7条)、センターで行うべき事業が以下の如く明文化された。

- ① 妊産婦の産前・産後の管理および分娩管理と応急処置に関する事項
- ② 嬰幼兒 (6才未満の乳幼兒) の健康管理および予防接種などに関する事項
- ③ 避妊施術に関する事項
- ④ 婦人科疾病およびそれに関する疾病の予防に関する事項
- ⑤ 心身障害児の発生予防および健康管理に関する事項
- ⑥ 保健に関する指導・教育・研究・広報および統計管理などに関する事項

現在、母子保健センターは体系的整備が進められており、全国に散在する第一線の母子保健センターと、これを地域毎に統轄する地域総合母子保健センター及び全国に対する第3次周産期医療センターの位置付けをもつ韓国母子保健センターの3タイプがある。

(1) 母子保健センター (MCHC) <一次センター>

世界銀行の融資を受けて、全国に96カ所のMCHCが保健所内又は保健所に隣接する形で設置されている。MCHCにはA型とB型があるが、両者は病床規模により区別される。

我々が訪れた禮山郡保健所MCHCを例にとって第一線のMCHCの概要を紹介する。タイプ

はB型でベッド数は6、禮山郡保健所に隣接（併設）して建設されている。

スタッフは9人で医師1、助産婦2、看護婦3、看護補助員（Nurse aid）1、他の技術職員2となっており、常勤の医師は公衆保健医と呼ばれる若手の医師である。韓国は医師にも兵役義務があるが、3年間MCHCや保健支所等へ公衆保健医として勤務すれば兵役を免除されることになっており、このため公衆衛生の第一線機関には経験の乏しい若手の医師が多数配属される傾向にあるといわれる。

設備の面で見るとインキュベータ、分娩台、吸引器、レスピレータ、高圧滅菌器等が整備されている。

当センターでの事業内容をみると、1987年（1月～11月迄）実績で、分娩数280件（目標400）、妊婦登録数288件（同400）、乳幼児登録数1,450件（同1,288）、妊婦健診数112件（同112）、乳幼児健診数341件（同353）となっている。

(2) 地域総合母子保健センター（RMCHC）〈二次センター〉

MCHCの上部機関として置かれているもので、全国を13ブロックに分け、現在その内11ブロックにRMCHCが設置されている。これらのセンターは300床以上の病院が担当することになっており、例えば禮山MCHCに対しては天安順天郷病院がRMCHCとして指定されている。RMCHCには公的病院はなく、全て民間の施設であって、このうち順天郷大学附属病院がソウルを含め4カ所で指定されていることが注目される。

RMCHCは、担当地域のMCHCで対処困難な事例について、医師や助産婦を指導したり、患者（妊産婦、乳児）を収容する役割を負うことになっているが、期待通りの連携がとれるようになるには、しばらく時間がかかるようだ。昨年、各RMCHCが集まり地域総合母子保健センター協議会を結成したが、本年、協議会の最初の事業として一般啓発用の育児指導パンフレット（カラー版）を作成配布した。横の連携が緊密になることで全国的なレベルアップが促されることが期待される。

(3) 韓国母子保健センター（KMCHC）〈第三次センター〉

1985年7月に150床をもってソウルに開院した私立順天郷大学母子保健センターは、改正母子保健法第7条第3項の規定（国家は母子保健機構が管掌すべき各種母子保健事業につき「医療法人又は非営利法人に委託してそれを遂行させることができる。」）に基づき、KMCHCとして機能している。

KMCHCの臨床部門については、JICAが1984年以来日本側専門家の派遣、韓国研修員の受入れ、設備備品の供与を実施してきており、相当のレベルにまで到達していると思われた。一方、公衆衛生部門（地域母子保健事業部）については、幾つかのフィールドを有し末端の村落にまで入り込んで活動を実施してはいるものの、スタッフ数も十分とはいえず全国レベルでの調査・研究・教育活動はまだこれからという段階である。今後の事業の充実強化が望まれる。

3-2-4. 今後の課題

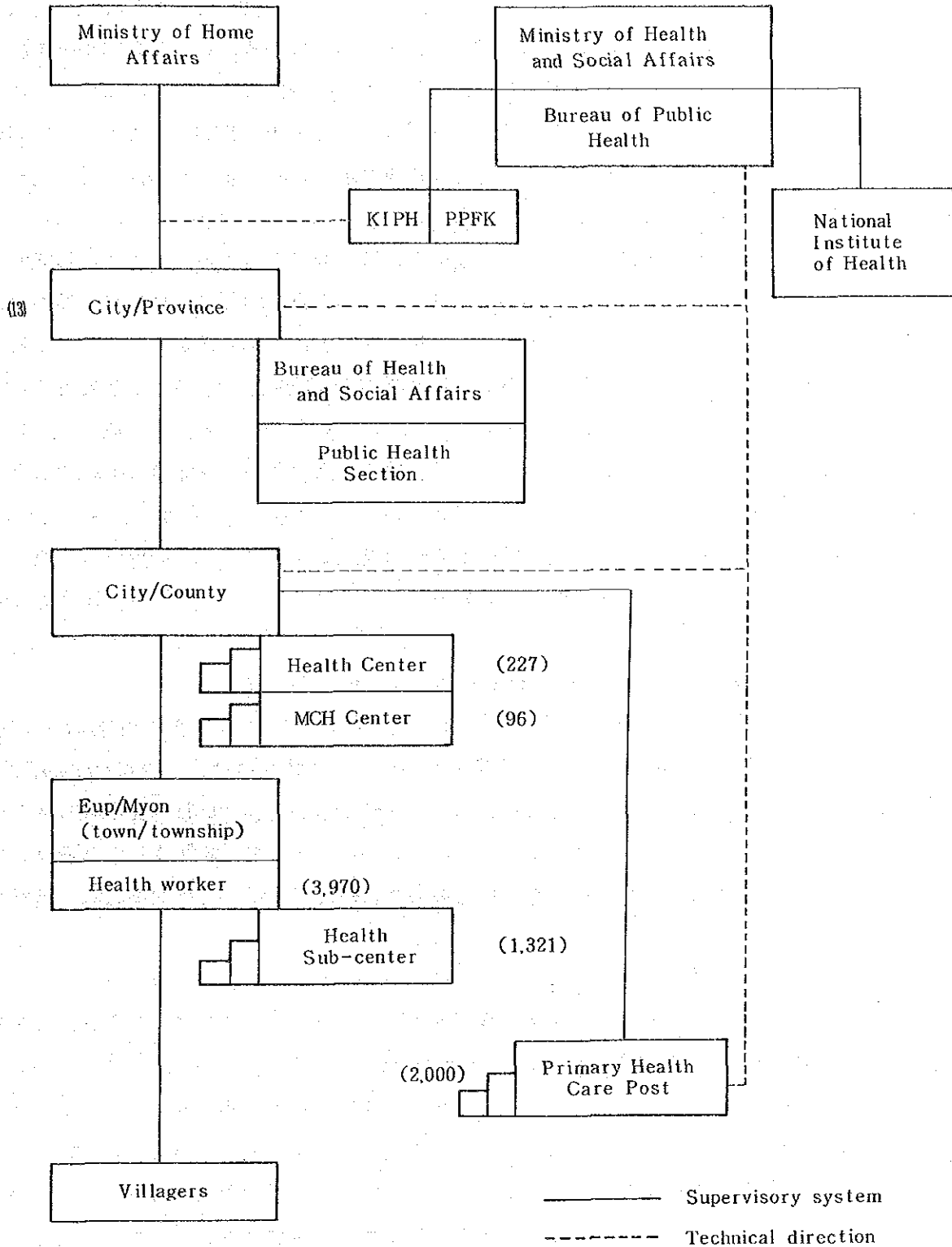
韓国の母子保健政策については、MCHCの整備促進（1986年89カ所、87年96カ所）、公衆保健医の義務的配備あるいは母子保健法の改正など、事業推進の姿勢は認められるものの、地域保健活動に関する予算面の裏付けがなかったり、順天郷大学の例にみられるように民間への依存度が高いといった問題点も幾つか指摘できる。

国としての展望について是非調査したかったところであるが、滞在中に保健社会部の担当官に接触するチャンスが全く得られず残念であった。

KMCHCに関しては臨床部門は設備もスタッフも充実しかなりの水準を維持しているように見受けられた。こうした頂点の充実に対し底辺部のレベルアップが今後に残された大きな課題といえよう。KMCHCが全国のMCHCのリーダーとしていかなる手法により指導体制を整えていくのか注目したい。地域母子保健活動に対する指導体制はほとんど未開拓の分野といえそうで、この面への強力なバックアップが緊急の課題ともなっている。

家族計画偏重から一般母子保健施策の方へと力点に移りつつある現在、末端まで浸透できるような母子保健事業の推進方策につき、支援のあり方を検討すべき時期に来ているといえよう。

NATIONAL STRUCTURE



3-3. 地域母子保健

(小沢)

3-3-1 はじめに

— 保健婦として大韓民国母子保健プロジェクト、地域母子保健専門家としての参加の意義—
(滞在期間は11月16日(出発)～21日(帰国)までの6日間)

個人的にも韓国は初めての訪問である。このプロジェクトの経緯と目的をみると、医療技術援助が主軸であり、大きな成果をあげている。今回の訪韓は地域母子保健、特に「母子保健地域組織」に焦点を置いての現状の把握が主なものであった。

永年 JICA プロジェクト援助により医療面の向上、特に援助母体であるソウルの順天郷大学韓国母子保健 center は、日本と何ら変るところはなく、日進月歩の医学、保健の先端をいっている。しかし、1年前頃より、「地域母子保健」が伴わないと、効果のあがらない部分があること、すでに、61年11月国立公衆衛生院高野陽氏が16日間指導に訪韓しているところである。

母子保健の向上こそ地域母子保健活動がいかにあるかにより向上してゆく鍵があることに、目向けられて来たことを思う。韓国において李貞子保健婦が大変私の訪韓を待っていることを事前に伺っていただけに、緊張と責任でいっぱいであった。

今、山梨県白根町で実施している「母子保健地域組織育成」として、「母子愛育班組織」育成の歴史と現状を伝え、韓国の現状を見聞し、比較検討し、よい方向づけが出来れば幸と思う。

3-3-2 順天郷大学韓国母子保健 center 事業報告の中から思う

順天郷大学韓国母子保健 center (以下 KMCH) は、私立大学病院附属機関であるが、韓国全土80ヶ所の母子保健 center (MCH) の上部機関としての地域総合母子保健 center (RMCH) の中核機関として、国から承認されていて、韓国母子保健 center として格付けされている。

全国に11ヶ所の病院に一線母子保健 center (MCH) は、世界銀行の資金により設置されたものであり、さらにその上部機関の地域総合母子保健 center (RMCH) は次の地域に設置されている。

① Seoul 順天郷大学韓国母子保健 center, 地域母子保健 center

(A型16床・B型6床) (A型4ヶ所・B型7ヶ所 計11ヶ所)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ②天安順天郷病院地域母子保健 center | (A 2・B 3 計5ヶ所) |
| ③大田乙支病院 | " " (A 1・B 2 計3ヶ所) |
| ④全州 Jesus 病院 | " " (A 4・B 5 計9ヶ所) |
| ⑤光州キリスト病院 | " " (A 6・B 9 計15ヶ所) |
| ⑥春川翰林大学病院 | " " (A 2・B 12 計14ヶ所) |
| ⑦陰城順天郷病院 | " " (不 明) |
| ⑧清州 Seoul 病院 | " " (A 2・B 7 計9ヶ所) |
| ⑨安東聖蘇病院 | " " (A 1・B 7 計8ヶ所) |

⑩亀尾順天郷病院地域母子保健 center (A1・B5 計6ヶ所)

⑪釜山日新キリスト病院 " " (A2・B5 計7ヶ所)

この内陰城順天郷病院を視察した。(後にのべる)

イ)組織機構について(機構表より)

KMCHの事業は大きく分けて、①母子保健病院としての役割と、②地域母子保健活動(地域組織育成含)とがある。

①は臨床医学領域としての活動で、産婦人科部門(周産期特殊クリニック、生殖医学特殊クリニック、不妊クリニック、産科・婦人科、産院)、小児科部門(小児特殊クリニック、新生児管理(NICU)、育児指導、小児治療病棟、母親教室などの開催であるが、直接地域に密着したものではなかった。しかし、Seoul市を中心に、周辺の地域の母子保健の進歩につながっていると考えられる。

②のKMCHの活動は事業部長、方淑教授(順天郷大学医学部予防医学)を置き、同センターのなかでは、病院と同格の位置にあり、組織上は、事業研究班と保健教育班とに分けられている。この事業部のスタッフは、部長以下全て大学や研究所との兼務である。教育、研究に力を入れている傾向にある。地域住民に地域母子保健の必要性が浸透するには、時間がかかると思われる。

この事業部が病院と同格の位置にありながらも、KMCHの病院の特に産婦人科及び小児科の医師等スタッフとの連携が、密に行なわれていないのではないかとと思われる。

研究のための研究に終わることのないようなシステムづくりが必要と思われる。それらの推進には……

- ・事業部の物質面の強化(余り知ることは出来なかったが)
- ・人的条件の強化を(兼務でない人材の確保と養成)
- ・公的機関(郡保健所(HC)・保健支所(町)(HSC)・保健診療所(村)(CHP))等との定例検討会の開催。
- ・研修会、研究発表会、学会等の企画運営とその評価判定等の積み重ね継続が重要と思う。

3-3-3 順天郷大学地域母子保健プロジェクトチームと順天郷陰城病院診療圏内、地域母子保健活動(陰城病院視察)

・ Seoulよりジープで2時間半のところに(農村)1984.4.1開院 Beds 80床の順天郷陰城病院がある。(総合病院)

(日本の高速道路の3倍もの巾のある道路を経て、枝道は舗装もなく、石ぼこの道に行く。区画整備のない丘陵に田畑が連なり(米・野菜・高麗人蔘)、時折農耕用の牛がみられた。人家は、まばらであり(2~3軒が4~500m間隔にみえる)古い家屋がほとんどであった。暖房用オンドルの煙がどの家からもたなびいていた。

・ 病院はややうす暗いが、設備は整い(医療機具はCTスキャン等も)救急病院としての設備も整備されていた。病室も廊下も広々としていた。医務、事務、看護共に職員数は、充分の様

子であった。特に医師の数は多いように見受けられた。

- 。病院の中での地域母子保健プロジェクトの位置づけは、はっきりしなかったが、スタッフのみが地域との連携を考えているだけで、病院としての方向づけ、病院関係職員の活動目的によるチームも構成されていなかった。

しかし、院長、産婦人科医師、小児科医師、看護総婦長とプロジェクトの責任である、保健婦との人間関係は良かった。部長である方教授ともよい連携がとれていて、活動、研究等はやりやすいようである。

- 。陰城郡には7面(町)があり、その内の2面(町)に地域組織育成をしている。(プロジェクトチームが入っている)蘇伊地区(25村)・遠南地区(29村) この内、蘇伊地区を見学する。

- 。蘇伊地区の組織育成の現状・(部落健康要員)

1村に1人の健康要員がいる。蘇伊は25村であるから25人の健康要員がいることになる。しかし、

- 。25村の内、交通、通信の便の悪い村、貧村が4村あり、その4村を集めて1つの保健診療所(CHP)がある。そこは無医地区であり、正看護婦が派遣されている。
- 。25村の中より上記の4村をぬくと、残り21村になる。結局、部落健康要員は21人になる。
- 。この21村(部落)が2つに分かれている。
- 。蘇伊地区には、3ブロックに部落健康要員がいることになる。

ブロック1、10人の部落健康要員	} 保健支所(HSC)(町役場単位)の保健要員が (2人)部落健康要員を指導する。
” 2、11の ”	
” 3、1 CHP管内4人の ”	

CHPには正看護婦がいるので ”

- 。蘇伊地区3ブロック別に、月1回のミーティングをする。(報告会)

①妊娠婦発見報告

②乳児 ” ”

③分娩 ” ” (場所)

④FP(対象、実施者、未実施者(理由)、IUDを使用しているの症状(出血腰痛))

⑤出生数(人口動態)(出生死亡、転出入、結婚)

※「活動報告書」(2部)(一部自分のところに残し一部を保健支所に提出)

月1回のミーティングに提出し発表する。(部落健康要員記入)

※「家族健康記録簿」(家の番号、部落、世主、医療保健の有無、家族構成表、住宅環境(経済、飲料水、台所、お手洗、トイレ(水洗の有無、カバーの有無)、予防接種一覧表、家庭訪問状況一表、妊娠と避妊歴、実施未実施の理由)(保健支所(HSC)の保健要員、保健診療所(CHP)の正看護婦が報告書を元に記入)

- 。部落健康要員へ、ユニホーム、カバー(応急カバー)を支給している。

- 。プロジェクトチームは部落健康要員へ次のことをサービスする。

①健康教育（ニュース）87.7月より実施……だより風

・内容①（レンタンガス中毒応急処置・気候と風邪・季節のかわり目注意・医療保険の案内№1・里長さん（村長）に伝える健康要員の手紙・予防接種案内・病院・保健所のニュース）

・内容②（今、タバコを吸ってますか？・神経痛とステロイド医療保険案内№2・健康要員の歌・予防接種案内・病院・保健所ニュース）

②部落健康教育（高血圧，母子保健，栄養，応急処置，血圧測定……）

③保健婦により訪問指導（李貞子PHN）（PHN個人で住民へプレゼントをすることもある）

④月1回のミーティングに参加すると，部落健康要員にプロジェクトより交通費を支給する。

・部落健康要員の資格（女性）（主婦）

①地域で信頼されている人

②5才以上の子供をもっている人

③30才～40才迄の人

④国民学校以上の学歴のある人（読めます，書けます）

⑤保健に関心のある人

・ブロック1の10人の部落健康要員のミーティングに参加して

・会場：食堂の一室（和室）以前は10人宅りん番制でまわりもちであった。）

・リーダー：1人いるが次回日程を決るのみ。

・司会：プロジェクトチームの職員（保健婦，助産婦等）

・発表報告会：自分が発表すれば他の人のことは聞かずに近くの人と雑談している。

・あぐらで座っている人が多い（韓国の正座？）

・昼食代は順番に支払う（自弁）

・規約，組織図等はない。

・ブロック1の健康要員10人の受け持ち戸数について

部 落	戸 数	人 口
1	68	267
2	85	492
3	68	226
4	40	178
5	70	239
6	34	122
7	83	302
8	67	241
9	44	238
10	57	269

・プロジェクトチームメンバー (9人) + (1人) 運転士 (ジープ)

部長：方淑教授

医師1人、保健婦(李貞子)1人、助産婦1人(妊婦栄養)、人類学者3人、

統計学者1人・コンピュータ専門員1人、運転士1人 (全員兼務)

・一方、遠南地区には29村があり、内、8村が交通、通信等不便であるため、4村を1単位として2つのCHP(保健診療所)がある。29村の内8村が2CHPに管理されながら健康要員が2人、残り21村に21人の健康要員がいる。

遠南は4ブロックに分かれている。

ブロック1 10人の部落健康要員

” 2 11人の ”

” 3 1 CHP管内4人 ”

” 4 1 CHP管内4人 ”

} 蘇伊と同じように指導しミーティングも行う。

プロジェクトチームは、蘇伊地区3ブロック、遠南地区4ブロックある部落健康要員の月1回のミーティングに参加し、指導する、計7回のミーティングへ参加することになっている。

3-3-4 部落健康要員と「李貞子」保健婦のかかわりについて

李PHNは、ソウルの順天郷大学韓国母保健センターに席を置き、陰城病院にて、地域母子保健プロジェクト室を拠点とし蘇伊地区と遠南地区の部落健康要員とかかわっている。指導、教育、研究している。

これらの地区には先に述べたように、CHP(保健診療所)に正看護婦が、HSC(保健支所)に、保健要員(看護補助員)が、HC(郡保健所)に看護員が、また郡保健所に併設している郡母子保健センターに助産婦がいる、それぞれの職員は公務員である。

一私立大学のプロジェクトチームが、このように研究しながら入っているがそれらの職員との連携がむづかしい。

HSC(保健支所)の保健要員(看護補助員)が本来ならば、部落健康要員を指導、教育(育成)する役割があるのだが保健要員が質的に差があり、月1回の健康要員とのミーティングに参加しない保健要員がいる。関心の少ない保健要員がいる。

「李貞子」保健婦は、健康要員とのミーティングや報告書の中からファクターをみつけ、(プロジェクトチーム員全てが各々みつけ出す)問題解決に活動している。

このプロジェクトチームは年1回上記の関係機関を一同に集め研修、研究、活動発表会を実施している。(面長、里長の出席もある)

しかし、一私立大学のプロジェクトチームの研究は住民への訴えもいまひとつ弱く、政策にまで発展していかない感じが強い。ここに研究に終わってしまう不安があるといえる。

HSC(保健支所)の保健要員(看護補助員)に会ったが、部落健康要員の指導、教育への情

熱など伺えなかった。

3-3-5 郡保健所（HC）と併設母子健康センター視察（MCHC）＜一次センターB型（6床）（陰城郡）（人口60,000人管内）

◎ 保健所長は一般事務官であった。（医師である場もある）内科、歯科医師、看護補助員、薬剤師、放射線技師、検査技師、事務職員で構成され（人数は正確につかめなかった）ている。

・建物は老朽化していた。歯科診療の所のみ活気があったが、全体に活気がなく閑散としていた。

・保健所長は、プロジェクトチームの活動に関心があり協力的のように伺えた。また、日本の「母子愛育組織活動」にも興味を示された。

・保健婦という名称の看護職はなく、看護補助員という名称でいる。医師診療補助の仕事が主軸を占めているようであった。

・郡保健所（HC）は、保健診療所（CHP）の指導、管理に当たって月1回運営委員会を実施している。

◎ 母子健康センター（MCHC）は、母子保健行政的に併設しているだけで職員の交流や、業務の連携は比較的少ない。しかし、このセンターの一室にプロジェクトチームの事務室が設置され、活動の拠点ともなっている。（建物は老朽化している）

・職員数：医師1、助産婦1、看護婦3、看護補助員3、事務員1、掃除婦（炊事婦）1である。

・1ヶ月分娩件数 約50件（年間600件）

・自宅分娩は30～40%前後。 ・センター40%前後 ・医療機関分娩18%

・分娩件数の割合にセンターには入院母子がいなかった。その理由は、分娩しても6時間後には退院してしまうということであった。①経済的理由、②仕事が忙しい、③家事をする人がいないという理由である。

産婦の75%は産後の休養はとっていない。産後の健診も受けたことがない。

・丁度、視察中HSC（保健支所）の保健要員（看護補助員）が、避妊手術希望の婦人を連れて来所していた。（部落健康要員から報告のあった者）手術も、避妊器具（IUD、ループが主流）所得によって、1児の母は（無料）等、2児以上の母（有料）等決められている。

・韓国の「1人っ子政策」の徹底がここにもみられた。

韓国における母子保健行政は、家族計画の偏重から、家族計画のみが先行して、一般母子保健行政と別立てに考えられている。今後は一般母子保健行政の中に家族計画を組み入れた政策が必要と考えられる。

＜母子保健センター利用案内＞パンフレットより（カラー刷り）

〔母子保健センターはどんなことをするところですか？〕

1. 妊産婦の産前産後の管理を徹底して健康な赤ちゃんを分娩します。

2. 正常と危険度が低い妊婦の分娩を補助して、危険度の高い妊産婦は応急処置をします。
3. 乳幼児の疾病の予防のために、伝染病予防接種と健康管理を担当します。
4. 地域住民に対して保健教育と栄養指導をします。
5. 家族計画施術と家族計画相談を担当します。

〔母子保健センターの分娩費用〕

医療保険の診療費を適用して、助産料の60%を補助します。(300,000ウオン内外)

〔母子保健センター利用の長所〕

1. 安全な分娩管理をしてもらえます。
2. 妊産婦の定期的な産前管理、産後管理を無料でしてもらえます。
3. 分娩費が安いです。
4. 分娩後、赤ちゃんとお母さんが続けて健康管理をしてもらえます。
5. 近い距離で、良い施設を利用してもらえます。

〔赤ちゃんの予防接種〕

赤ちゃんは母から病気に対して免疫をもらって出生します。しかし一定時期をすぎると、抵抗力弱くなりますから、一定時期に必ず予防接種を受けて、体の抵抗力を高めなければなりません。

赤ちゃんの身体に異常がある時は、予防接種の時期になっても、病気が悪化して、予防接種の副作用がありますから、医師と相談して決定します。

(1) 基本接種

年 令	種 類
生後4週以内	B C G
“ 2ヶ月	ポリオ・D P T (百・ジ・破)
“ 4ヶ月	ポリオ・D P T (“)
“ 6ヶ月	ポリオ・D P T (“)
“ 15ヶ月	麻疹・風疹・耳下腺炎
“ 3才～15才	日本脳炎

(2) 追加接種

年 令	種 類
18ヶ月	ポリオ・D P T
4～6ヶ月	ポリオ・D P T
11～13ヶ月	ポリオ・D P T
毎 年	日本脳炎 (流行前に接種)

〔家族計画をどうしてするか?〕

— 沢山使用している避妊方法 —

- ・毎日々 ピル服用 (1カップ 200ウオン)
- ・時々 コンドーム (6ヶ入れ 1ケース 200ウオン)

・1回 IUD（無料・実費）

・男の避妊 精管手術（無料）

・女の避妊 卵管手術（無料）

家族計画相談と、施術をお願いする時は、母子保健センターに来ましょう。

3-3-6 今後の課題とまとめ

韓国の母子保健政策について事前の知識も少なく、訪韓してからも韓国の厚生省（保健社会部）等とミーティングの機会がなく国全体の考えが伺えず、特に地域母子保健活動に関する国の裏付けが理解出来ず残念であった。一私立大学である順天郷大学が部落健康要員を育成していることと、国の政策への結びつきが、はっきりしないままである。

「はじめに」でのべたように、母子保健の向上こそ地域母子保健活動がいかにあるかにより、国全体の母子保健の充実につながる大きな鍵があることにJICAプロジェクトの中でも目が向けられて来たことにより、今回の私の訪韓にあったことと思う。私自身視野がせまく期待に応えられるだけのものがなかったのではないかと反省している。

我が国の場合、狭義の地域母子保健活動の中で、母子保健推進員制度、母子地域組織育成制度（母子愛育班育成）は、国レベルできちっと位置づけられていて、県、保健所、市町村という行政の中で、永年のプロセスを得て行なわれている。

町役場においても、PHNの位置づけが確立され、保健行政の中へ母子保健が組み込まれ、PHNは全戸網羅の組織育成をし成果を上げている。

住民は町を活用し、町は組織を通じ住民を活用し、共に身近な健康上の問題を（生活に密着した）考え、立場立場で力を出し合い解決策を出し、評価している。

地域組織育成は住民にかかわり、指導、教育する専門家の力量（医学書で教育レベル）にかかるところも大きいことから、韓国の専門家の医学、看護学（看護婦、保健婦、助産婦）教育と、資格、制度が我が国とちがう事も、大きな課題となりそうである。

一番重要な、部落健康要員の教育、指導をする人材の確保が先決と思われる。

それ以前に看護教育の面があろうが、韓国政府が母子保健にどれだけ力を入れているかにかかっていると考えられる。順天郷大学地域母子保健プロジェクトチームの位置づけ（センターの中で、国レベルで）が、確立していることが重要と思われる。

このプロジェクトチームが医療と連携がとれ、共同活動をしそれらの結果を発表する機会をもうけ、その効果や成果の程を順天郷大学韓国母子保健センターの理事長並びに所長にも伝えその必要性を解くことも大切な事であろう。

一方順天郷陰城病院診療圏内におけるプロジェクトチームの活動の中でも同じことであるが、陰城病院がいかに地域に密着した病院であるか、そのためにも、プロジェクトチームが把握した地域のリスクやニーズを陰城病院で行う検診につなげるとか、健康教育につなげるようなところも、一方法と言えよう。

行政機関（郡保健所、保健支所、保健診療所）と共催にイベントを行う等、この場合モデル地区という形で特定の地区を行うのも良いと思う。イベントの内容は、部落健康要員の活動が報いられるものとしたい。統計的に訴えられるものが出てくることが期待出来よう。ここに住民パワーの活用の素晴らしさが理解出来よう。

それにも増して、活動結果、成果の出る迄のプロセスが、住民を変えてゆくのだと思う。

継続は力なりということで、つづけて活動することが要求される組織育成には、いかに「人」を得るといことが住民側からも育成者側（専門家）でも重要であるということと言うまでもない。そこで、私が滞在中、共に、母子保健地域活動について案内方お話を下さった順天郷大学韓国母子保健センター内の地域母子保健プロジェクトチームのメンバーである保健婦（李貞子氏）の来日を願わずにはられない。

我が国に於て指導を願いたいところとしては、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会、母子愛育推進本部（東京都港区麻布）である。今後韓国への派遣の機会が得られるなら、母子愛育会推進本部の保健婦を推せんします。

4. 昭和63年度(1988/89)及び昭和64年度(1989/90)の協力計画について

4-1. 専門家派遣

63年度と64年度については、プロジェクトの進捗の中間時点で計画が見直され双方で以下のよう
に合意した。

63年度

① 産婦人科

- ・ 卵管微細手術 2人 各2週間
- ・ 生殖内分泌学 1人 2週間

② 地域母子保健 1人 3週間

62年度派遣の小沢百合子専門家の調査及び指導内容をフォローする型で、保健婦の専門家
派遣が要請されている。

③ 分娩室看護 1人 3週間

④ 新生児クラリオソノグラフィー 1人 2週間

⑤ 小児眼科 1人 2週間

64年度

① 日韓母子保健合同会議 5人 1週間

プロジェクトの最終成果を日韓双方の関係者で確認するため、小学会形式で合同会議を
1989年6月頃ソウルで開催する。

② 産婦人科 1人 2週間

③ 小児科 1人 2週間

上記、②③の専門家の指導内容は未特定であり、韓国側における今後のプロジェクトの進捗を
見計らって決定されるが、場合によっては合同会議への参加に振替えることも有り得る。

4-2. 研修員受入れ

韓国側より以下のように要請がなされたが、日本側としては受入枠の問題もあるので、本要請
を日本に持ち帰り検討したいとして、ミニッツにおいては63年度3名、64年度1名の受入れにつ
いて記録することとした。

63年度

① 産婦人科 1人 6ヶ月間

李順 (女) 自家免疫不妊症と反復流産及び妊娠中毒症又は妊娠中Rh同種免疫の免疫
学的研究

② 小児科 1人 6ヶ月間

金恩美(女) 小児腎臓疾患の診断と治療、小児腎臓組織の生検法、慢性腎不全患児の処
置、腎臓生理及び腎臓の機能

- ③ 母子保健 1人 6ヶ月間
韓久雄(男) 地域母子保健分野研究
- ④ 母子保健行政 1人 1ヶ月間
李鍾勲(男) 母子保健行政, 国, 地方自治体

64年度

- ① 産婦人科 1人 6ヶ月間

4-3. 機材供与

ミニッツ添付リストのと通りの機材供与につき韓国側は要請したが, 日本側としては, 内々の了解として, 63年度 40,000千円, 64年度 20,000千円の予算を計上するよう努力する旨述べた。

THE MINUTES OF THE DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE ADVISORY AND CONSULTATION TEAM AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE REPUBLIC OF KOREA
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
MATERNAL AND CHILD HEALTH PROJECT

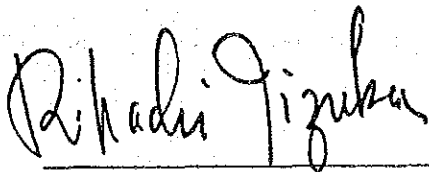
資料
1

The Japanese Advisory and Consultation Team, (hereinafter referred to as the Japanese Team) headed by Professor Dr. Rihachi Iizuka, School of Medicine, Keio University, and organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA), visited the Republic of Korea from 15th to 21st of November, 1987 for the purpose of making technical guidance and working out the technical cooperation programme during the rest period of the project term up to July 31, 1989, based on the Record of Discussions signed on April 6, 1984 between Dr. Rihachi Iizuka, Leader of JICA Survey Team, and Dr. Lee Chu Won, Director General of Public Health Bureau, Ministry of Health and Social Affairs, Republic of Korea.

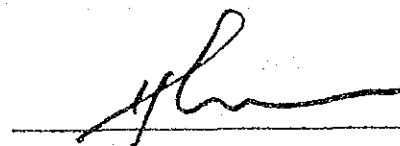
During its stay in the Republic of Korea, the Japanese Team exchanged views and had a series of discussions with the Korean authorities concerned.

As a result of the discussions, both sides agreed to record the following for the smooth implementation of the project.

Seoul, November 20, 1987



Dr. Rihachi Iizuka
Advisory and Consultation Team
JICA



Dr. Yoo Hoon
Director of Korean M.C.H. Center
Soon Chun Hyang University

1. Dispatch of Japanese Experts to Korea

Both sides agreed that the Japanese experts would be dispatched according to the schedule as listed in Annex I.

2. Training of Korean Personnel in Japan

Korean side requested Japanese side that the counterpart training in Japan would be carried out in 1988 and 1989 according to the schedule as listed in Annex II.

Japanese side stated that the training is quite necessary therefore agreed to convey the request of Korean side to JICA headquarter.

3. Supply Machinery and Equipments

Both sides agreed that the machinery and equipments as listed in Annex III would be expected to be provided in 1988 and 1989 within the project framework.

Japanese side mentioned that the provision of equipments would be executed on the condition of the budgetary allocation for this project and were subject to change to the priority for project activities.

4. Both sides agreed that the project activities such as experts dispatch, counterpart training and provision of equipments mentioned above, would be implemented through the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

ANNEX I EXPERT

April 1988 - March 1989

1. Obstetrics and Gynecology
 - 1) Micro-Surgery two experts two weeks
 - 2) Reproductive Endocrinology one experts two weeks
2. Regional Maternal and Child Health one expert three weeks
3. Delivery Ward Nurse one expert three weeks
4. Pediatric Craniosonography one expert two weeks
5. Pediatric Ophthalmology one expere two weeks

April 1988 - July 31, 1989

1. Joint Conference five experts one weeks
2. Obstetrics and Gynecology one expert two weeks
3. Pediatrics one expert two weeks



ANNEX II COUNTERPART TRAINING

April 1988 - March 1989

1. Obstetrics and Gynecology

one trainee six(6) months

2. Pediatric Nephrology

one trainee six(6) months

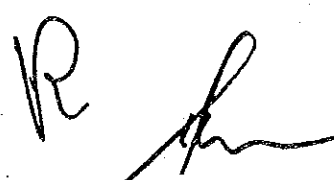
3. Maternal and Child Health

one trainee six(6) months

April 1989 - July 31, 1989

1. Obstetrics and Gynecology

one trainee six(6) months



ANNEX III EQUIPMENT

April 1988 - March 1989

attached

April 1989 - July 31, 1989

attached

R

attached I (1988)

1. Child Audiometer System
Consisting of :
 - 1) Nagashima S-II Infant Audiometer
 - 2) Nagashima WAB-1 Neometer Audiometer for Hearing Test on Newborn Babies
2. Hitachi X-Ray Apparatus, General Diagnostic, Radio-Fluorographic, 500MA/125KVP
(System 4)
3. Shimadzu UV-265 UV-VIS Recording Spectrophotometer
4. ALOKA Ultra-Sector Scanner (IVF)
5. Olympus 1MT-2-21 Inverted Phase Contrast Microscope
6. Fukuda Denshi FX-102A 1-ch. 10sets
EKG Machine
7. Hitachi Capacitor-Discharge Type Mobile X-Ray Unit
(Sirius 125B)
8. Olympus CF-10L Colonofiberscope
9. Nagashima SN-SP & SP-100 ENT Unit & Chair, Fiberoptic Endoscope Set

10. Cystourethroscope w/Light Source (Olympus)
11. Acoma MC-50 Surgical Mobile X-Ray Unit
12. Daikyo 9000HC Four Light Mobile Surgical Light and
50EA of Extra Halogen Bulbs
13. Mera Model PDT type He-Me Cold Laser Stimulator
w/Standard Acc.
14. Sakura CO2 Incubator, Large, w/Complete Acc. (Regulator)
(IVF)

attached II (1989)

1. Chemical Direct Reading Balance
Shimadzu Model : L-200SM, 200g/0.01mg
2. Electrolyte Analyzer (Na/K/Cl)
Jookoo Model : ION-150M
3. Audiometer, Computerized, 2-ch.
Danac 31 + 120
4. Portable EEG Machine, 8-ch.
Nihon Kodan 5208
5. Heart Lung Pump, 5-Pump
Mera Model : Hex-500
6. Video System Center, for Gastrointestinal
Fiberscope (Olympus CV-1)
Consisting of :
 - 1) GIF V10 Gastrointestinal Fiberscope (1EA)
 - 2) GIF K10 Gastrointestinal Fiberscope (1EA)
 - 3) SIF 10 OES Small Intestinal Fiberscope (1EA)

7. OR Monitor for ECG, HR, Pulse, 2 Invasive BP,
2 Temp., Trends.

Consisting of :

- 1) Trend Monitor w/Patient Cable, lead wires,
Manuals (1 SET)
 - 2) Annotation recorder w/Interface CABLE, Paper,
Manuals (1 EA)
 - 3) ESIS Filter Choke (1 EA)
 - 4) Pulse Sensor (1 EA)
 - 5) Invasive BP Transducer (2 EA)
 - 6) Temp. Probe (2 EA)
8. Portable Blood Cagulation
Timing System (Hemochron)
 9. Gas Chromatograph for Analyzing Organic Acid
 10. Atomic Absorption Spectrophotometer
 11. High Frequency Oscillation Jet Ventilator
w/Air Oxygen Blender Mera AE-20
 12. Icterometer w/Hematocrit Centrifuge N-Ideal A-500
 13. Blood Pressure Monitor

14. Deep Freezer (Sakura)
15. Shimadzu Densitometer
16. Pulse Oxymeter
17. PO₂, PCO₂ Monitor Sumitomo Electric PO-200

禮山母子保健センターの概要（1987. 11. 18 現在）

資料
2

1. 施設の概要

着工 1981. 11. 30
 竣工 1982. 6. 30
 型別 B
 規模 敷地 1,000 坪，建坪 228/坪
 ベッド数 6
 開院 1983. 4. 1
 総工費 173,204 千 W

2. スタッフ

計	医師	助産員	看護員	看護補助	他
9	1	2	3	1	2

3. 予算

	予 算 額		
	計	国 費	地 方 費
計	3,092	2,811	281
材料費	250		250
施設運営費	1,042	1,011	31
医薬品費	1,800	1,800	

4. 医療設備

インキュベータ	分娩台	照明灯	吸引器	人工呼吸器	高圧滅菌器	冷蔵庫	DNCセット	切開器	救急装置	紫外線消毒器
1	2	1	1	1	4	3	1	2	2	15種

5. 事業実績

◦ 分娩数

計	1983年	84	85	86	87 (11月17日現在)
777	20	85	133	259	280

◦ 事業実績 (1987. 11. 17 現在)

		計 画	実 績	達 成 率	事 業 費
計		2,553	2,491	96.8 %	1,008 千W
登 録	小 計	1,688	1,738	103	
	妊 産 婦	400	288	72	
	乳 幼 児	1,288	1,450	112.5	
検 診	小 計	465	453	97.4	1,008
	妊 産 婦	112	112	100	224
	乳 幼 児	353	341	96.6	784
センター内分娩		400	280	70	

7. 広報活動等

- センターの名入タオルの配布
- 予防接種の個別通知
- 分娩予定の妊婦への個別通知
- 産後管理
- 家庭訪問
 - 産前登録
 - 産後訪問
 - 乳幼児訪問
 - 家族計画
 - 保健教育

事業報告書

日韓技術協力に依る順天郷大學

韓國母子保健Center事業

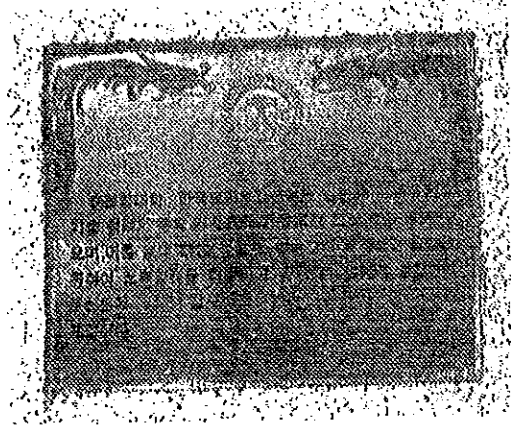
(1984.8.1~1987.4.30)

順天郷大學

韓國母子保健Center

SEOUL KOREA

1987.5.1.



順天郷大學韓國母子保健Centerは日本國の醫療技術協力並に重要醫療器材の供與がその基礎をなし、これを土台に將來兩國間の母子保健向上に努力することを誓いながら本Center設立に貢獻して下さった兩國關係諸氏に感謝の意を表するためここに記す。

1975. 7. 1.

目 次

第一章 設立の目的及概要	43
1. 目 的	43
2. 日本國との技術協力	43
3. 事業綜合計劃に對する事前協議及指導	44
第二章 順天郷大學韓國母子保健Center概要	46
1. Center竣工	46
2. 組織機構	49
① 機構表	49
② 人員現況	50
③ 研究委員會	51
④ 研究諮問委員委囑	68
第三章 日本専門家來韓指導現況	69
第四章 韓國研修生派遣現況	71
第五章 日本側供與機材年次別現況	73
第六章 順天郷大學韓國母子保健Center各種統計	82
1. 産科, 小兒科臨床統計	82
2. 妊婦登録及分娩現況(85.7.1 ~ 87.4.30)	82
3. 育兒指導會	82
4. 母親教室	82
5. 各種母子保健教育	83

第七章 政府母子保健事業への參與	86
1. 母子保健基本政策方向	86
2. 順天郷大學韓國母子保健Centerの役割	87
3. 綜合Center協議會の事業計劃	93
4. 診療圏別 母子保健Center及 地域母子保健Center分布圖	95

第一章 設立の目的 及 概要

1. 目 的

韓国は福祉社会面に於て国民所得の向上，文化，経済的急速發展に比し，
嬰乳兒死亡率，周産期死亡率，妊産婦死亡率等が高いと云うことは國家が持つ
一つの大きな問題点であるだけでなく，人口政策面に於ても障碍要因の一つと
なり，特に嬰乳兒死亡率の高率は可妊婦に“餘備子息”が必要であると云うこ
とを心のひとすみに持つ様にする傾向があり，これは20數年間心血をかたむ
けた家族計劃事業に悪影響を及ぼし特に西紀2023年までには人口停止を目標
とする國家人口政策にも多大な影響を及ぼして居る。

かかる見地から健康な母から健康な兒を出産させ精神的，肉体的に健康な國
民に育てあげる母子保健事業に誰かは責任を持たねばならないと云う見地から
この事業に着手した。

2. 日本國との技術協力

日本は色々環境的な面で韓国と類似した点が多く特に母子保健事業の活動
面では1965年すでに嬰乳兒死亡率を先進國線にまで低下させる一方母子保健
事業に必須條件である地域母子保健事業に成功し1985年には嬰乳兒死亡率を
世界最低位にまで下げた。

かかる見地から當大學は1979年から日本の有關機關，大學等と交流する一
方技術協力を推進させ，技術情報交換等を目的に慶應義塾大學醫學部産婦人科
學教室(飯塚理八教授)，日本母性保護醫協會(森山豊會長)と姉妹關係を結縁

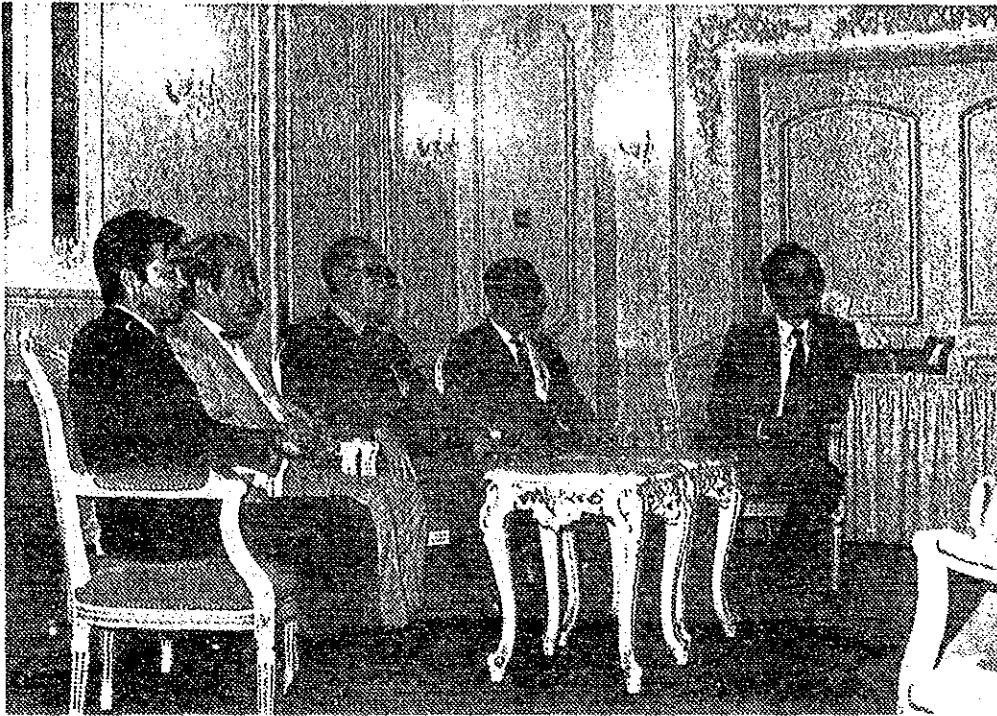
することになりこれを土台として母子保健要員5名(産婦人科,小児科,小児外科,小児精神科,小児成形外科)が1982年10月～1983年8月のあいだにそれぞれ日本内各大学で事前研修教育を受けた。

この様な事前協力と,飯塚理八教授,森山豊會長,青木菊磨博士の御盡力に依り1984年4月6日順天郷大学韓国母子保健Center Projectに関する日韓技術協力合議文書(The Record of Discussions for Soonchunhyang University Maternal & Child Health Project)が日本国際協力事業団を代表して飯塚理八教授と韓国保健社会部保健局長 李柱源博士とのあいだに調印式が行われた。

3. 事業総合計画に対する事前協議及指導

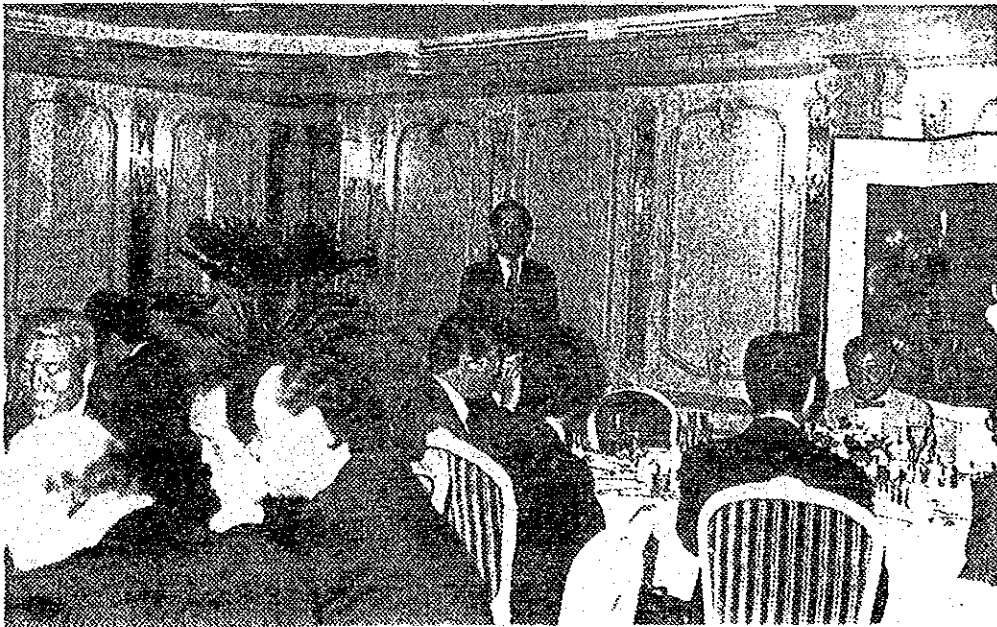
合議文書に依る日韓技術協力は1984年8月1日から5年間と云うことになり事業の総合計画,事業協議及び指導の爲1984年10月16日各分野3名の日本側専門家が来韓され分野別計画,指導及ソウル所在各大学主任教授及関係者との合同意見交換,特別講演をされた。

第1次日本専門家來韓：（R/D Attached Document II - 1に依る）



第一次日本専門家の
特別講演後記者會見

日本慶應義塾大學醫學部（産婦人科）飯塚理八教授
日本東京女子醫科大學（周産期學）坂元正一教授
日本慶應義塾大學醫學部 河上征治教授

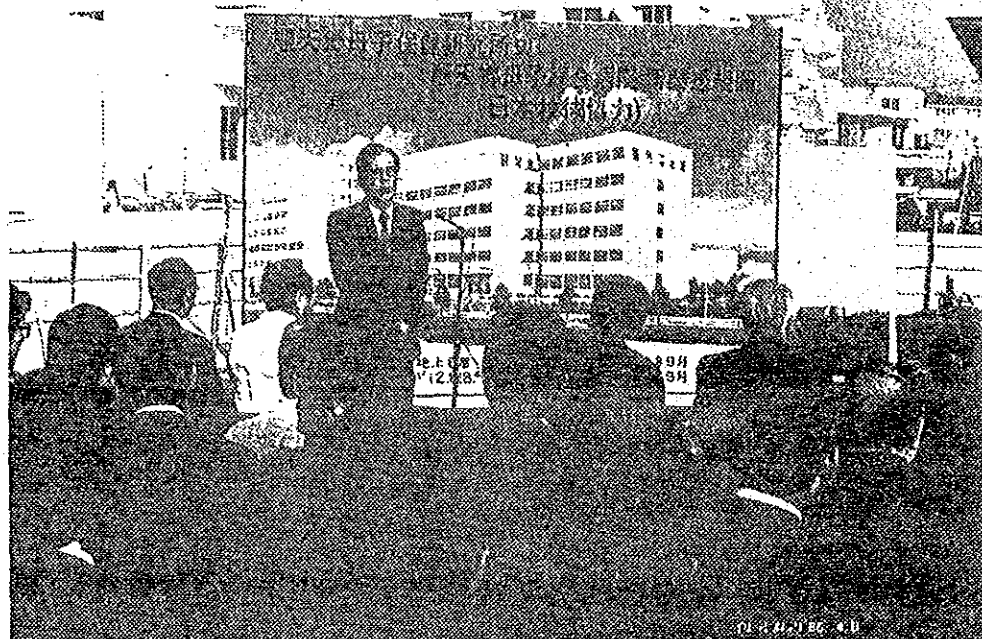


第一次専門家と Seoul 所在各大學産婦人科主任教授及關係官との懇談會

第二章 順天郷大學韓國母子保健Center 概要

1. Center 竣工

當Centerは1983年11月19日着工して1985年7月1日竣工し1985年7月12日開院式とともに本格的事業を開始した。建物は垓地1,986㎡、地下2階、地上6階延面積7,131㎡の規模で地下2階は放射線治療室、地下1階臨床病理部、1階院務、藥局、放射線、育兒指導會、2階産婦人科、小兒科外來、3階分娩室、手術室、新生兒室、新生兒集中治療室、5階小兒科病棟、6階産科病棟になっており150病床で運営されている。特に育兒指導會は病院の玄関とは別に玄関を作り患兒との完全隔離をさせている。又産科病棟には母子同室を作り母子間情緒傳達の場としている。



順天郷大學韓國母子保健Center 起工式
(1983年11月19日)



開院式にて日韓技術協力に関する沿革を説明する所長



開院式にて日本側來賓の紹介をする理事長

1985.7.12

保健社會部長官祝辭



1985.7.12

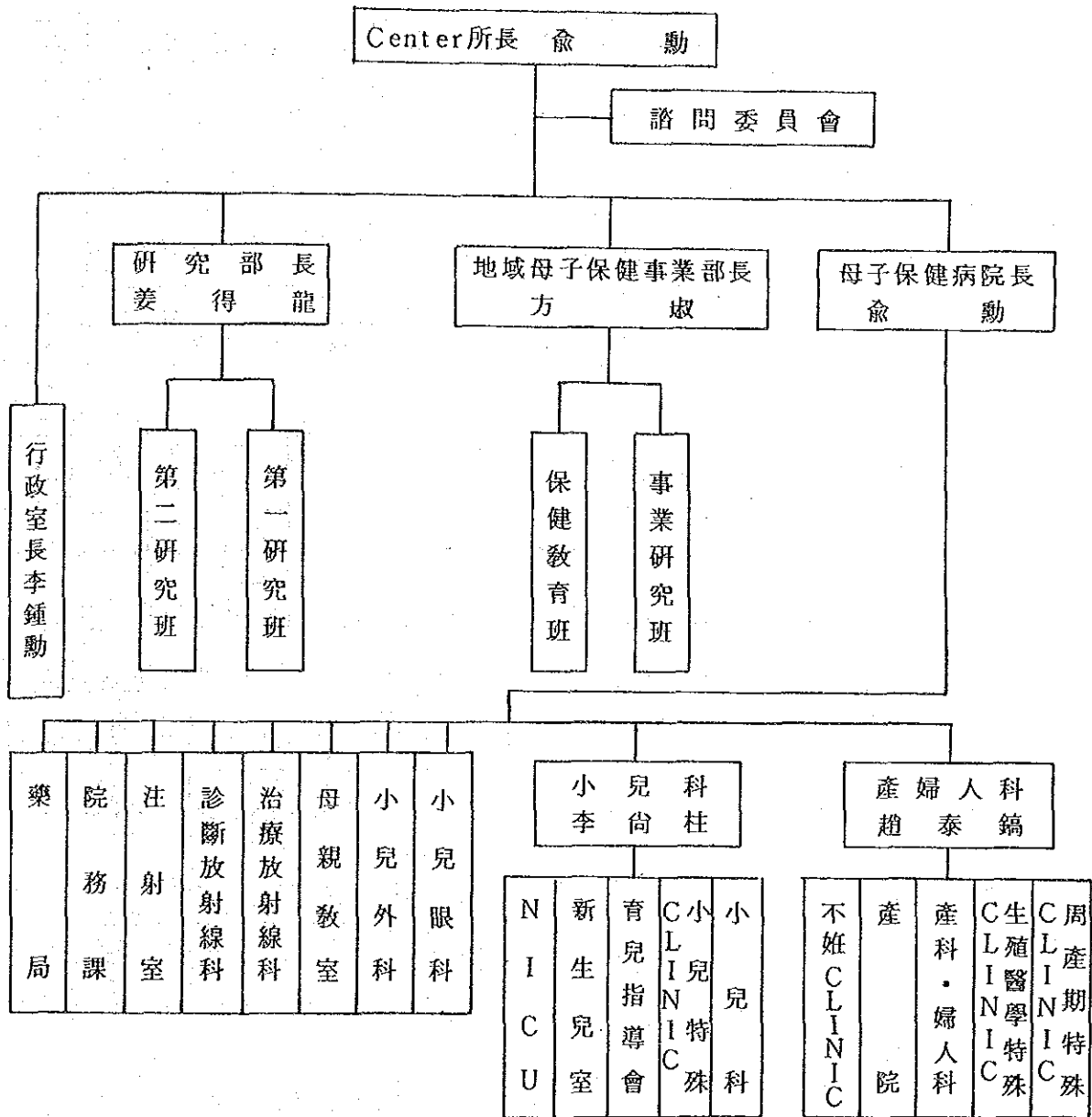
駐韓日本特命全權大使の
記念式辭



2. 組織機構

① 機構表

順天鄉大學
韓國母子保健 Center



② 人 員 現 況

1987年 3月 1日現在

1. 醫 師 職

科別 \ 區分	專 門 醫	專 攻 醫 3 年 次	專 攻 醫 2 年 次	專 攻 醫 1 年 次	인 턴	計
產 婦 人 科	8	6	8	7	2	31
小 兒 科	7	6	7	8	2	30
計	15	12	15	15	4	61

2. 看 護 職

科別 \ 區分	首 看 護 員	主 任 看 護 員	RN	AN	病 院 補 助	計
5 病 棟	1	1	11	3		16
6 病 棟	1	1	7	2	1	12
分 娩 室	1		7	3	1	12
新 生 兒 室	1	1	14	4		20
產 婦 人 科 外 來			1	5		6
小 兒 科 外 來				7		7
育 兒 相 談 室			1	2		3
計	4	3	41	26	2	76

3. 行 政 職

課別 \ 職位	行 政 室 長	係 長	事 務 員	計	備 考
行 政 室	1		3	4	
院 務		1	8	9	
醫 務 記 錄			2	2	
計	1	1	13	15	

4. 藥 務 職

科別 \ 職位	主 任	藥 師	藥 師 補	計
藥 劑	1	1	1	3
計	1	1	1	3

5. 醫 療 職

科別 \ 職位	主 任	技 士	技 士 補	計
放 射 線 科	1	1	1	3
計	1	1	1	3

6. 技 能 職

課別 \ 職位	汽 罐 工	電 工	運 轉	守 衛	案 內	計
施 設 課	2	2				4
總 務 課				6	1	7
行 政 室			1			1
計	2	2	1	6	1	12

※ 總人員：173名

③ 研究委員會

母子保健の臨床基礎的研究及地域母子保健活性化をめざし1986年2月下記の如く研究委員會を發足させると共に研究題目を決定し現在進行中である。

委員會

委員長：教授 姜得龍（研究部長）

共同委員長：教授 方 淑（地域母子保健事業部長）

委員：教授 俞 勳（所長）

委員：教授 李尙柱（小兒科主任教授）

委員：教授 趙泰鎬（産婦人科主任教授）

委員：副教授 李東煥（小兒科）

委員：講師 李英周（産婦人科）

幹事：講師 車相軒（産婦人科）

研究題目は臨床基礎部問4題、地域母子保健關係4題で1986年7月に着手して現在進行中であるが特に新生兒先天性代謝異常の研究については全國母子保健網を通じて約3万～4万の新生兒から檢体を集め全國的な研究をめざしておる。

研究期間は1986年7月～1988年6月31日間2年間を目標としている。

研究題目

Research No.	Title	Investgator
I-1	The Incidence of Inherited Metabolic Disorders and Hypothyroidism in the Korean normal Newborns.	Lee, D.H.
I-2	Cytogenetics prenatal Diagnosis of Chromosomal Abnormalities from Amniotic Fluid.	Lee, Y.J.
I-3	Measurement of Serum Rubella Antibody Titers in Korean children and pregnant women.	Lee, I.S.
I-4	The Epidemiology of HB virus infection in Korean pregnant women and Newborns.	Lee, D.H.
II-1	Baseline studies on Risk assesment & utilization of MCH/Fp services in rural Korea.	Han, S.H.
II-2	Action-cum-Research on integration of the nutrition component into MCH Care.	Kim, Y.O.
II-3	Anthropological study on social and cultural factors reproductive behavior.	Kim, E.S.
III	The Development of management & Information systems for a Community-basd MCH Care program.	Bang, S.
IV	Development of Health manpower and Dissemination of Information and educational materials in MCH to support CMCHC project.	Han, S.H.

發表論文

I. The List of Paper (1984. 7 - 1987 . 4) (Department of obstetrics and Gynecology)

1. K.H. Lee : Drug therapy during pregnancy, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 7, No. 3, 1984.
2. K.H. Lee, K.H. Park : The Relationship between Maternal Weight Gain and Brith Weight in full term pregnancies, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 8, No. 1, 1985.
3. S.K. Lee : Basic Concepts of Colposcopy, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 8, No. 4, 1985.
4. S.S. Shin, S.K. Lee, K.H. Lee, K.H. Park, T.H. Cho : C-reactive protein as a Predictor of Chorioamnionitis with Premature reapture of the Membranes, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 9, No. 1, 1986.
5. M.Y. Choi, Y.J. Lee : A case of Huge Ovarian cyst, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 9, No. 1, 1986.
6. H. Yoo : Consideration of Korea Maternal & Chil Health Project, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 9, No. 2, 1986.
7. S.K. Lee, T.H. Cho : The Effect of Colposcopy for early Diagnosis of the Cervical cancer, The Journal of the Soon-

- chunhyang University, Vol. 9, No. 2, 1986.
8. C.R. Cho, Y.J. Lee, H. Yoo : Clinico-statistical study of Twin pregnancy, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 9, No. 3, 1986.
 9. J.I. Lee, S.H. Cha, Y.J. Lee, T.H. Cho : Relationship between Maternal Hemoglobin Concentration and Birth Weight in Pregnancy Induced Hypertension, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 9, No. 3, 1986.
 10. S.H. Cha, H. Yoo : Clinical Significance of Fetal Ponderal Index in predicting Intrauterine Growth Retardation, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 9, No. 3, 1986.
 11. E.K. Ko, S.K. Jang, K.H. Choi, Y.J. Lee : A Case of Arthrogryposis Multiplex Congenita, The Korean Journal of Obstetrics & Gynecology, Vol. 27, No. 11, Sept., 1984.
 12. S.H. Oh, K.H. Lee, T.H. Cho : Clinical aspects of Multiple pregnancies, process report at The 54th Annual Cogress of the Korea Association of Obstetrics & Gynecology, October, 1984.
 13. K.D. Lee, Y.J. Lee, H. Yoo : Clinical Aspects of Postmaturity, process report at The 54th Annual Congress of the Korea Association of Obstetrics & Gynecology, October, 1984.
 14. K.I. Na, I.S. Lee, T.H. Cho : 4 Cases of Ectopic pregnancies

- diagnosed with Ultrasonogram before rupture, process report at The 54th Annual Congress of the Korea Association of Obstetrics & Gynecology, October, 1984.
15. Y.M. Jeon, I.S. Lee, H. Yoo : 4 Cases of Ovarian Pregnancies, process report at The 54th Annual Congress of the Korea Association of Obstetrics & Gynecology, October, 1984.
 16. M.K. Shin, K.H. Lee, H. Yoo : A Case of Choriocarcinoma with metastasis to right ovary, appendix and lower urethra & A Case of Invasive mole with lung metasis, process report at The 54th Annual Congress of the Korea Association of Obstetrics & Cynecology, October, 1984.
 17. I.S. Han, J.M. Choi, Y.T. Kim, I.S. Lee, H. Yoo : A Statistical Study for Low Birth Weight Infants, The Korean Journal of Obstetrics & Gynecology, Vol. 27, No. 14, November, 1984.
 18. H.J. Kim, S.K. Lee, M.K. Shin, I.S. Lee, H. Yoo : A Clinical and Pathologic Study on the Ovarian Tumors in Pregnancy, The Korean Journal of Obstetrics & Gynecology, Vol. 27, No. 15, December, 1984.
 19. S.K. Lee, J.Y. Kim, Y.J. Lee, T.H. Cho. : A Study of Transmission of Hepatitis B Virus in the HBs Ag positive Mothers and Their Newborns, The Korean Journal of Obstetrics & Gynecology, Vol. 27, No. 15, December, 1984.

20. T.H. Cho : Clinical Aspects of Menopause, The Korean Journal of Obstetrics & Gynecology, Vol. 28, No. 4, April, 1985.
21. K.H. Choi, H.J. Kim, K.H. Lee, T.H. Cho : Two Cases of Endometriosis of Appendix, The Korean Journal of Obstetrics & Gynecology, Vol. 28, No. 7, July, 1985.
22. K.H. Nam, Y.C. Ko, Y.J. Lee, T.H. Cho : A Study of Chlamydia trachomatis infection in Pregnant women, The Korean Journal of Obstetrics & Gynecology, Vol. 28, No. 8, August, 1985.
23. Y.M. Jeon, H.K. Shin, I.S. Lee, K.H. Lee, T.H. Cho : The relationship of Maternal Weight and Height to Birth Weight, The Korean Journal of Obstetrics & Gynecology, Vol. 29, No. 1, January, 1986.
24. M.K. Shin, K.H. Nam, Y.J. Lee, H. Yoo : A Case of Cornual Paegnancy diagnosed with Ultrasonogram before rupture, The Korean Journal of Obstetrics & Gynecology, Vol. 29, No. 3, March, 1986.
25. J.Y. Kim, K.H. Nam, Y.J. Lee, H. Yoo : A case of Leiomyo-sarcoma of the Uterus, The Korean Journal of Obstetrics & Gynecology, Vol. 29, No. 5, May, 1986.
26. K.S. Jung, S.K. Lee, Y.J. Lee, T.H. Cho : A Study of Hemo-dynamic Effects of Hydralazine in Pregnant women with Pregnancy Induced Hypertension, process report at The 58th

- Annual Congress of the Korea Association of Obstetrics & Gynecology, October, 1986.
27. K.S. Jung, S.H. Cha, H. Yoo : A Study of Gross and Microscopic Pathologic findings in Premature Rupture of the Membranes, process report at The 58th Annual Congress of the Korea Association of Obstetrics & Gynecology, October, 1986.
 28. K.K. Choi, K.H. Lee, H. Yoo : Clinical Value of Ponderal Index as Predictor for Intrauterine Growth Retardation, process report at The 58th Annual Congress of the Korea Association of Obstetrics & Gynecology, October, 1986.
 29. J.H. Choi, I.S. Lee, H. Yoo : Clinical Value of Observation of Cervicovaginal Columnal Epithelium with Colposcopy, process report at The 58th Annual Congress of the Korea Association of Obstetrics & Gynecology, October, 1986.
 30. J.E. Lee, Y.J. Lee, H. Yoo : A Significance of Abnormal Vascular Findings in Coposcopic Examination, process report at The 58th Annual Congress of the Korea Association of Obstetrics & Gynecology, October, 1986.
 31. M.Y. Choi, S.H. Cha, T.H. Cho : A Electronic Microscopic Study of Tubal Changes in Menstrual period, Pregnancy, old age and Inflammations, process report at The 58th Annual

Congress of the Korea Association of Obstetric & Gynecology,
October, 1986.

32. K.H. Jung, K.H. Lee, T.H. Cho : A Case of Nonimmune Fetal
Hydrops, process report at The 58th Annual Congress of the
Korea Association of Obstetrics & Gynecology, October, 1986.

II. The list of papers (1984-1987)

(Department of Pediatrics)

1. H.S. Lee : The influence of phototherapy on the concentration of serum calcium, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 27, No. 9, 1984.
2. M.R. Roh, K.W. Lee, D.H. Lee, S.J. Lee : Late infantile metachromatic leukodystrophy, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 27, No. 10, 1984.
3. C.H. Park, MR. Roh, S.C. Park, J.O. Park : A case of chronic granulomatous disease, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 27, No. 11, 1984.
4. K.W. Lee, H.J. Choi, S.M. Shin : A case of congenital adrenal agenesis, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 27, No. 11, 1984.
5. MR. Roh, K.W. Lee, E.M. Kim, S.M. Shin, S.J. Lee : A clinical observation of acute carbon monoxide poisoning, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 27, No. 12, 1984.
6. W.H. Baik, M.R. Roh, Y.C. Kim, H.J. Choi, S.J. Lee : A case of Rubinstein Taybi syndrome, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 27, No. 12, 1984.
7. M.H. Kang, B.R. Lee, D.H. Lee, S.J. Lee : Two cases of neonatal gastrointestinal perforation, Abstracts of Free

- Papers, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1984.
8. B.R. Kim, M.H. Kang, S.M. Shin : A casw of myelodysplasia, Abstracts of Free Papers, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1984.
 9. M.H. Kang, M.S. Moon, H.J. Choi, S.J. Lee : Three cases of VATER association, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1984.
 10. K.O. Kim, H.K. Pang, S.J. Lee : Two cases of Wilson's disease, Poster Exhibit, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1984.
 11. H.K. Park, M.S. Moon, S.M. Shin, S.J. Lee : A case of congenital CMV infection, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1984.
 12. K.O. Kim, M.S. Moon, B.Y. Pyun, S.J. Lee : A case of Behcet's syndrome, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1984.
 13. K.H. Kim, H.C. Kang, D.H. Lee : Three cases of degeneration of epileptic focus in brain C-T of pediatric epilepsy, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1984.
 14. S.Y. Koh, J.O. Park, S.J. Lee : A case of tuberous sclerosis, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 7, No. 3, 1984.

15. H.K. Pang, B.Y. Pyun, J.O. Park : A case of Hallerman-Streiff syndrome, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 7, No. 7, 1984.
16. Y.C. Kim : Resistance of Giardia lamblia cysts to desiccation, light and radiation, Younsei Journal of Medical Science, Vol. 17, No. 2, 1984.
17. D.H. Lee : Nutrition in low birth weight infant(1,2), Namyang Digest, Vol. 8, No. 7,8, 1984.
18. S.M. Shin : Consideration of nutrition for low birth weight infant and special artificial milk for low birth weight, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 28, No. 10, 1985.
19. S.M. Shin: The present status of infants feeding in Korea, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 28, No. 10, 1985.
20. D.H. Lee : Incidence of inherited metabolic hypothyroidism between mental retarded child in Korea, Abstracts of Free Papers, Edited Korean Pediatric Association, Oct. 1985.
21. M.S. Moon, H.S. Cho, D.H. Lee, S.M. Shin, S.J. Lee: Clinical observation of patient with influenza A, Abstracts of Free Papers, Edited by Korean Pediatrics Association, Oct. 1985.
22. B.I. Kim, M.S. Moon, J.O. Park, D.H. Lee, S.J. Lee: Positive

- predictive value of hepatic marker in the children of Seoul, Abstracts of Free Papers, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1985.
23. B.T. Kim, M.S. Moon, B.Y. Pyun, S.M. Shin, S.J. Lee : Vertical transmitted infection of hepatitis B, Abstracts of Free Papers, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1985.
 24. B.T. Kim, H.K. Park, H.J. Cha, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of isoimmune thrombocytopenia in neonate, Abstracts of Free Papers, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1985.
 25. H.K. Pang, S.M. Won, S.M. Shin : A case of congenital spherocytosis, Abstracts of Free Papers, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1985.
 26. B.R. Kim, H.K. Park, S.J. Lee : A case of rhabdomyosarcoma in biliary tract, Abstracts of Free Papers, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1985.
 27. K.D. Hong, K.W. Kim, S.W. Eun, C.H. Kim, S.J. Lee : A case of INAH intoxication, Abstracts of Free Papers, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1985.
 28. B.T. Kim, M.S. Moon, E.M. Kim, C.H. Kim, S.J. Lee : Transmitted infection between the family of hepatitis B virus, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association,

- Oct. 1985.
29. K.H. Kim, S.Y. Koh, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of vit. E deficiency in premature, Poster exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1985.
 30. H.C. Kang, J.O. Park, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of 10q trisomy, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1985.
 31. M.H. Bang, Y.L. Yoon, E.M. Kim, S.J. Lee : A case of Crouzon's disease, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1985.
 32. M.S. Moon, M.H. Kang, C.H. Kim, S.J. Lee : A case of Klippel-Feil syndrome associated with Sprengel's deformity, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 8, No. 3, 1985.
 33. K.O. Kim, M.S. Moon, E.M. Kim, S.J. Lee : A case of Edward syndrome, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 8, No. 3, 1985.
 34. S.M. Shin, S.J. Lee; Practical blood transfusion, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 8, No. 4, 1985.
 35. C.H. Kim : Psychological aspects of the parents with convulsive child, The Journal of Kyunghee University, Vol. 10, No. 1, 1985.

36. M.H. Kang : A study of inhibition mechanism of intestinal motility of lidocaine, Kyunghee Journal of Medical Science, 1985.
37. S.M. Shin : Behcet's syndrome, Namyang Digest, Vol. 9, No. 8, 1986.
38. K.O. Kim, M.S. Moon, S.E. Koh, D.H. Lee, S.J. Lee, Clinical observation for low birth weight infant, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 29, No. 1, 1986.
39. S.Y. Koh, M.H. Kang, B.T. Kim, D.H. Lee, S. J. Lee: The clinical study of rodenticide intoxication in children, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 29, No. 3, 1986.
40. M.H. Kang, B.T. Kim, J.O. Park, S.J. Lee : Two cases of Wilson's disease, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 29, No. 3, 1986.
41. B.T. Kim : Epidemiologic study on hepatitis B virus infection in childhood, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 29, No. 6, 1986.
42. K.H. Kim, B.L. Kim, C.H. Kim, S.J. Lee : A case of Marfan syndrome, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 29, No. 8, 1986.
43. H.C. Kang, S.M. Won, D.H. Lee, S.J. Lee, S.Y. Moon : A case

- of partial trisomy 10 (q22-q26), The Journal of Korean Pediatric Association, Vol.
44. K.D. Hong, M.S. Moon, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of asphyxiating thoracic dystrophy, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
 45. H.K. Park, S.M. Won, J.O. Park, S.J. Lee : Four cases of diagnosis and treatment of intussusception in infancy and childhood using ultrasonography and saline enema, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
 46. M.H. Bang, K.W. Kim, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of congenital absence of rib, hemivertebrae and pulmonary hernia, Poster Exhibits, Edited by Pediatric Association, Oct. 1986.
 47. M.H. Oh, C.H. Kim, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of Kawasaki disease with local reaction on injection site of B.C.G. Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
 48. Y.L. Yoon, S.C. Park, D.H. Lee, S.J. Lee : Three cases of Laurence-Moon-Biedle syndrome, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
 49. H.S. Choi, C.H. Kim, S.M. Shin, S.J. Lee, Y.S. Lee : A

- case of mediastinal lipoma, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
50. B.R. Kim, K.D. Hong, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of islet cell adenoma of neonate, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association. Oct. 1986.
51. Y.L. Yoon, B.T. Kim, D.H. Lee, S.M. Shin, S.J. Lee : A case of Congenital nasopharyngeal teratoma, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
52. M.H. Bang, S.M. Shin, S.J. Lee : Three cases of tuberous sclerosis, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
53. H.K. Park, B.L. Kim, S.M. Shin, S.J. Lee : A case of thrombasthenia, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
54. H.K. Pang, B.L. Kim, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of Citrullinemia, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
55. K.H. Kim, H.J. Cha, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of Noonan syndrome, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
56. M.H. Oh, C.H. Kim, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of ventriculo-radial dysplasia, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.

57. H.S. Choi, S.B. Park, E.M. Kim, D.H. Lee, S.J. Lee : A case of vit. D dependent rickets, Poster Exhibits, Edited by Korean Pediatric Association, Oct. 1986.
58. B.T. Kim, M.H. Kang, B.H. Oh, B.Y. Pyun, S.J. Lee : The clinical study on muco-cutaneous lymph node syndrome, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 9, No. 3, 1986.
59. H.C. Kang, M.H. Oh, D.H. Lee, S.J. Lee : Change of serum concentration between in healthy Koreans, The Journal of Soonchunhyang University, Vol. 9, No. 3, 1986.
60. D.H. Lee : Neonatal screening for inborn errors of metabolism, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 30, No. 1, 1987.
61. S.M. Woon, B.R. Kim, J.O. Park, S.J. Lee : A clinical study on intussusception in infancy and childhood, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 30, No. 2, 1987.
62. H.K. Park, K.H. Kim, S.M. Shin, S.J. Lee : A case of Glanzmann's thromboasthenia, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 30, No. 2, 1987.
63. H.K. Pang, K.H. Kim, J.O. Park, S.J. Lee : Present status and problems of weaning, The Journal of Korean Pediatric Association, Vol. 30, No. 2, 1987.
64. S.J. Lee : Recent trends in treatment of tuberculosis, The Journal of Korean medical Association, Vol. 30, No. 1, 1987.

④ 研究諮問委員 委囑

事業の重要性から母子保健關聯専門家及大學教授 9 名を本Center 諮問委員としておる。

朴贊武博士	韓國人口保健研究院長
金世景博士	韓國不妊施術協會長
裴炳胃博士	韓國不妊施術協會副會長
張潤錫教授	Seoul 大學校醫大產婦人科教授
高光昱教授	Seoul 大學校醫大小兒科教授
郭顯模教授	延世大學校醫大產婦人科教授
陳東植教授	延世大學校醫大小兒科教授
洪性鳳教授	高麗大學校醫大產婦人科教授
李斗鳳教授	Catholic 大學醫大小兒科教授

第三章 日本専門家來韓指導 現況

年次	姓名 所 屬	期 間	内 容
1 次	飯塚 理八 (慶應義塾大學) 産婦人科	1984.10.16 ～ 10.20	産科, 周産期科, 小兒科専門醫として當Center事業の部門別將來計劃に對し部署責任者と協議する一方, 特別講演及當Center運営に關してSeoul所在大學の關係教授と懇談會を開催した
	坂元 正一 (日本女子醫大)	"	
	青木 菊磨 (愛育會総合母子保健Center)	"	
2 次	名取 道也 (慶應義塾大學) 産婦人科	1985.10.2 ～ 10.13	産婦人醫工學専門家として來韓, 胎兒監視装置, 超音波装置の原理と實地臨床指導を實施した
	小林 俊文 (慶應義塾大學) 産婦人科	1985.10.11 ～ 10.20	
3 次	木下 芳廣 (慶應義塾大學) 醫學部	1986.8.11 ～ 8.25	産婦人科内分沁系専門家として來韓し臨床應用面で指導及協力をし内分沁外來診療の系統化に多大な効果をもたらした。
	森 彪 (埼玉小兒醫療) Center	1986.8.18 ～ 8.30	
	鈴木 健 (東京豫防醫學會)	1986.10.20 ～ 11.8	
	高野 陽 (國立公衆衛生院)	1986.11.3 ～ 11.18	
	森川 良行 (慶應義塾大學) 醫學部	1986.11.3 ～ 11.18	
	五味 昭彦 (關東遞信病院)	1987.3.19 ～ 4.4	

上記日本専門家の來韓指導に依る効果：

1. 供與された器材の臨床實地應用面で大變有益であつた。
2. 約2週間あまりの滞在ではあるが分野別に個人的な友誼が深まり歸國後も相互醫學情報の交換があるだけでなく相互日本と韓國に對する認識が特に若い層で變化されおたがいの國を深く理解する機會になつたと云う事は日韓技術協力精神以上の効果があつたと思はれる點である。
3. 臨床及地域母子保健面に於て直接日本の現情を聞き、指導される事に依りその理解が早く、これらを直接韓國の事情に適應する様に應用する時間が短縮できると云う點で非常に効果があつた。
4. 日本現地研修から歸國した人達にとっては日本専門家との再會に依り復習をする機會が得られると云う點でも有益であつた。

以上の點から日本専門家は出來れば韓國研修生が研修した機關又は韓國研修生を受け入れる計劃のある機關から派遣して下さる事がより効果があると思われる。

第四章 韓國研修生派遣 現況

年次	姓名	期間	分野	機關	指導教授
事前個人研修	俞 勳	1982.10 ~1982.12	母子保健全般	慶應義塾大學醫學部	飯塚理八
	韓善浩	1982.10 ~83.10	小兒精神科	〃 〃	保崎秀夫
	李東煥	1982.10 ~83.3	新生兒集中治療	日本大學醫學部	馬場一夫
	朴鍾燮	1983.2 ~83.4	小兒成形外科	慶應義塾大學醫學部	藤野豐美
	俞 熙	1983.2 ~83.8	小兒外科	〃 〃	阿部令彦
1次年度	金彰輝	1984.11.27 ~85.4.21	小兒血管心臟學	埼玉小兒醫療 Center	青木菊磨
	李東華	1984.11.27 ~85.2.23	羊水培養, 臨床病理	慶應義塾大學醫學部	飯塚理八
	李英周	1984.11.27 ~85.2.23	生殖醫學	〃 〃	飯塚理八
2次年度	李權海	1985.11.25 ~86.5.17	周產期學, 醫工學	〃 〃	飯塚理八
	朴在玉	1985.12.4 ~86.5.31	小兒超音波, 內視鏡分野	〃 〃	青木菊磨
	辛端麗	1985.11.6 ~86.2.3	新生兒集中治療看護學	〃 〃	石井孝子
3次年度	李任順	1986.7.8 ~86.12.23	不妊及卵管微細手術	〃 〃	飯塚理八
	片復陽	1986.7.8 ~86.12.20	小兒 allergy	國立小兒病院	青木菊磨 飯倉洋治
	金擲任	1986.7.8 ~86.12.23	小兒麻醉	慶應義塾大學醫學部	中野正雄
4次年度(計劃)	車相軒		母子保健, 細胞培養		
	盧重基		小兒血管心臟外科		
	朴聖姬		小兒眼科		

以上 1986 年までの研修生は現在研修を終了し帰國後それぞれの分野に於て各自の研修分野開發に努力中であるが中には機材等の未備で計劃及準備段階にある者もあるが其の他は日本での修得知識を十分に活用して當 Center 發展に寄與して居るが繼續的な日本との技術情報交流が必要であると考へられる。

第五章 日本側 供與機材年次別 現況

THE LIST OF EQUIPMENT DONATED FROM JICA FOR THE 1ST YEAR

1984

No.	Description of Goods	Place
1.	Infant Warmer PF-150 with acce.	Nursery
2.	Infant Incubator C-86-A with acce.	Nursery
3.	Infant Incubator C-86-B with acce.	Nursery
4.	Infant Ventilator PB-800 with acce.	Nursery
5.	Neonatal Monitor 2K-01 with acce.	Nursery
6.	Neonatal Monitor 2K-01 with acce with TCPO2	Nursery
7.	Acid-Base Analyzer ABL-30 with acce "	Nursery
8.	Fetal Monitor 2J-21, 4 Beds and 2 Monitor	Delivery Room
9.	Kymographic Hydro-Tubator KH-600 "	Delivery Room
10.	Incubator 1F-3B " "	Delivery Room
11.	Co-2 Incubator " "	Delivery Room
12.	Lab. Sterilizer ASV-3001 " "	Delivery Room
13.	Doppler Sound Detector	Delivery Room
14.	Electron Microscope H-330 " "	Laboratory
15.	Amino-Acid Analyzer 835-30 " "	Laboratory
16.	Mobile X-Ray Unit HITACHI 100-B "	Dept. of Radiology
17.	Automatic Processor GX-300 " "	Dept. of Radiology
18.	TOYOTA Supper Saloon Ambulance "	M.C.H. Center
Total		32 Items

THE LIST OF EQUIPMENT DONATED FROM JICA FOR THE 2ND YEAR

1985

No.	Description of Goods	Place
1.	ANESTHESIA MACHINE FOR PAINLESS DELIVERY TOITU MODEL : SANRAC AMNIOSCOPE PORTABLE COUVEUSE TOITU MODEL : ACDC	Delivery Room " Nursely
2.	HOT AIR STERILIZER AUTOMATIC SAKURA MODEL : HE-11 GRAVITY CONVECTION DRYING OVEN SAURA MODEL : TK-11	Delivery Room Clinical Laboratory
3.	AUTOMATIC SLIDE CYTOSSEDIMENTION MACHINE SAKURA MODEL : CF-12C	"
4.	LINEAR ELECTRONIC SCAN ULTRASONIC TOMOGRAPH NEC SAN-EI MODEL : 2H-71 MULTIMOTOR NEC SAN-EI MODEL : 2K-11 STANDARD ACCESSORIES	OB/Gyn Delivery Room
5.	DOUBLE-WALL HOOD INFANT INCUVATOR ATOM MODEL : V-82c	Nursely
6.	PH-A-1513TF X-RAY CONTROLLER GH-S3-1613T HIGH TENSION TRANSFORMER	Cardiac Catheterization Room
7.	IT097H 9"/7" IMAGE INTENSIFIER DI-DP-3SZ 3-CH IMAGE DISTRIBUTOR STAND of PH-A-1513TF CONTROLLER	" "
8.	ZG-GTC-1 HIGH-VOLTAGE SWITCHING UNIT	"

No.	Description of Goods	Place
9.	ZP-A7 CONTROL CABINET ADAPTOR BOX of PH-A-1513TF CONTROLLER POWER BOX of PH-A-1513TF CONTROLLER	" "
10.	ADAPTOR BOX of T-AL TABLE ADAPTOR BOX of SF-VA3Z SUPPORT	" "
11.	T-AL CATHETERIZATION TABLE CONTROLLER for LOWER LIMB ANGIOGRAPHY ZV-M-20 12 MONITOR ZV-M-27 17" MONITOR	" " " "
12.	XTV-V-203A X-RAY TV CAMERA UNIT ZU-L3TC MANUAL COLLIMATOR COVER of T-AL LABELLE CORD and CABLE	" " " "
13.	SX-A5 CEILING TRAVELING TYPE X-RAY TUBE SUPPORTOR	"
14.	SF-VA3Z C-ARM TYPE SUPPORT, FLOOR TYPE	"
15.	COVERS of SF-VA3Z SUPPORT X-RAY TUBE SUPPORT PART OF SF-VA3Z SUPPORT IMAGE INTENSIFIER SUPPORT PART OF SF-VA3Z SUPPORT	" " "
16.	INSIDE RAIL SET of SX-A5 SUPPORTOR	"
17.	OUTSIDE RAIL SET of SX-A5 SUPPORTOR	"

No.	Description of Goods	Place
18.	UH-5EC-42W X-RAY TUBE UNIT ZP-A18N HIGH-SPEED ANODE ROTATION DRIVER ZU-L4FD MOTOR-DRIVEN COLLIMATOR UH-5PC-42T X-RAY TUBE UNIT LOCAL CONTROLLER OF SF-VA3Z SUPPORT	" " "
Total 23 Units & 19 Sets		

THE LIST OF EQUIPMENT DONATED FROM JICA FOR THE 3RD YEAR

1986

No.	Description of Goods	Place
1.	Ultrasonic Cleaner SAKURA Model, US-200S, 200Y, 200B, 200D with standard Accessories	Operating Room
2.	Pulmonary Function Test System FUDAC-30, System-2, A-type with standard Accessories	Pulmonary Function Test Room
3.	24-hour ECG Full-Sideclosure System Model : SCM-270 with standard accessories	ECG Room
4.	"ATOM" Transport Incubator Model V-80TR CM-6530 with Parts 6	Nursery
5.	"ATOM" Infant Incubator Model; V-82/SC with standard accessories	Nursery
6.	24-hour ECG Cassette Recorder Model; SM-26 with standard accessories	Cardiology Room
7.	"ATOM" Infusion Pump Model; P-300	Nursery
8.	Fetal Monitor Tyep 2J21SP with standard accessories & spare parts	Delivery Room
9.	Vital Sign Monitor Type 845XT with standard accessories	Delivery Room
10.	Multi-Monitor Type 2K11 with standard accessories	Delivery Room

11.	<p>Central Monitor for Fetal and Maternal Monitoring System</p> <p>11-1 System Controller 7D01SP</p> <p>11-2 Color Monitor 2G71SP</p> <p>11-3 Color Printer 8P</p> <p>11-4 Thermal Recorder 6196SP</p> <p>11-5 Graphic Printer 2257SP</p> <p>11-6 Console for Central Monitor SP</p> <p>11-7 Console Counter (DESK) with standard accessories & spare parts</p>	<p>Delivery Room</p> <p>Delivery Room</p> <p>Delivery Room</p> <p>Delivery Room</p> <p>Delivery Room</p> <p>Delivery Room</p> <p>Delivery Room</p>
Total		36 Items

THE LIST OF EQUIPMENT DONATED FROM JICA FOR THE 3RD YEAR

No.	Description of Goods	Place
1.	Freezing Microtome, Model; CM-41	Clin. Lab.
2.	Spiro Analyzer Model : ST-100	Card. Dept.
3.	Mains Operated Portable ECG with standard acc. Model: FK-12	
4.	AC Operated, Isolation AMX/Defibrillation/Pace Maker Pulse Protection/ Rectilinear Writing Employed Automatic 3-ch ECG Model; FX-302	
<p align="right">Total 4 sets (2 C/S)</p>		

THE LIST OF EQUIPMENT DONATED FROM JICA FOR THE 3RD YEAR

No.	Description of Goods	Place
1.	Lighting Apparatus, FUTABA	Dept. Pediatrics
2.	Super Light, UV-LS-BI	"
3.	Standard Blood Filter Paper 4 pcs/1 set	"
4.	Standard Blood Filter Paper	"
Total 3 PCS & 1 SETS		

No.	Description of Goods	Place
1.	Fetal Monitor Type 2J21 with Standard Accessories	Delivery Room
2.	Mobile cart for above	"
Total 3 PCS & 1 SETS		

以上供與機材は第3次年度分までのListであるがこれら機材は母子保健特に周産期醫療の診斷及治療特に基礎研究に多大なる寄與をしており。

本Center 發展の基礎をなしたと云つても過言ではないと思われる。